

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

<全文>国立国語研究所の日本語研究：  
ここまで進んだ!ここまで分かった!：  
国立国語研究所第9回NINJALフォーラム

|       |  |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2017-03-15<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.15084/00000946">https://doi.org/10.15084/00000946</a>                |

ここまで進んだ! ここまで分かった!

# 国立国語研究所の 日本語研究

## 〈ウチから見た日本語の多様性〉

危機方言はおもしろい

～方言にひそむ多様な発想法～

木部暢子

## 言語研究のインフラ整備

～日本語コーパスから見えてきたもの～

前川喜久雄

## 〈ソトから見た日本語の特質と普遍性〉

日本語の音声～促音(っ)の謎～

窪蘭晴夫

## 言語の普遍性と多様性

～自動詞・他動詞の対応にみられる普遍的傾向～

ブラシャント・バルデシ

## 〈ソトとウチの接点としての日本語学習〉

日本人と外国人の日本語コミュニケーション

～学習者の「安全な誤用」と「危険な正用」～

迫田久美子

ポスター展示とデモンストレーション



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

NINJAL

# ここまで進んだ! ここまで分かった! 国立国語研究所の 日本語研究

開会の辞〈国立国語研究所六年間の歩み〉

所長 影山 太郎

1

〈ウチから見た日本語の多様性〉

講演 危機方言はおもしろい〈方言にひそむ多様な発想法〉

時空間変異研究系教授 木部 暢子

6

講演 言語研究のインフラ整備〈日本語コーパスから見えてきたもの〉

言語資源研究系教授 前川 喜久雄

14

〈ソトから見た日本語の特質と普遍性〉

講演 日本語の音声〈促音(っ)の謎〉

理論・構造研究系教授 窪蘭 晴夫

27

講演 言語の普遍性と多様性

〈自動詞・他動詞の対応にみられる普遍的傾向〉

言語対照研究系教授 プラシヤント・パルデシ

39

〈ソトとウチの接点としての日本語学習〉

講演 日本人と外国人の日本語コミュニケーション

〈学習者の「安全な誤用」と「危険な正用」〉

日本語教育研究・情報センター教授 迫田 久美子

50

ポスター展示とデモンストレーション

59

閉会の辞〈今後の展望〉

所長 影山 太郎

60

# 開会の辞～国立国語研究所 六年間の歩み～

所長 影山 太郎



本日は第九回NINJALフォーラムにかくも賑々しくご来場いただき、誠にありがとうございます。  
今回は、前回までと異なる特別な趣向を凝らしています。従来、フォーラムというのは、一般の方々に向けた講演会として日本語に関する具体的なテーマを取り上げてきましたが、今年三月で国立大学と同様、国立国語研究所も六十年の中期計画期間が終わり、ひとつの大きな節目を迎えます。そのため、過去六年間の研究活動の総括として、一般の方々だけでなく研究者の方々にも聞いていただきたいという想いから、従来のフォーラムと比べると少し専門的な話を交え、講演会というよりむしろ研究発表会として企画してみました。このような企画は、二〇〇九年に文化庁所轄の独立行政法人から文部科学省所轄の大学共同利用機関に模様替えした本研究所にとりましては、とりわけ意義のあるものと考えている次第です。

## 国語の研究所から日本語の研究所へ

本日の表題は「ここまで進んだ！　ここまでわかった！　国立国語研究所の日本語研究」となっています。私の開会の挨拶では、「ここまで進んだ！」の部分、つまり、この六年間で本研究所がどう変わったか、どのように進展してきたかという大きな流れをお話します。その後、五つの講演と展示・デモンストレーションで「ここまでわかった！」という具体的な内容に入っていきます。

六年間で変わったものも基本的なことは、国語の研究から日本語の研究へと範囲が広がったという一言につきまします。言語というのは、日常のコミュニケーションの手段であると同時に、人類だけに備った論理的思考や創造性の源泉でもあるわけです。言語が持つこの二つの側面のうち、「国語」という用語はコミュニケーションの手段としての側面を表すものと理解できます。言い換えると、普段日本語を使っている私たち国民の立場、いわば「ウチ」から見た用語です。これに対して、「日本語」という呼び名は、地球上に六千以上あると言われる人間言語の一つとして



捉える用語で、この側面を理解するためには「ソト」、すなわち諸外国語から見る視点が必要になります(図1)。

ウチ(国民の眼)から見た日本語というのは、たとえば、漢字が多すぎる、マスコミでカタカナ言葉が多くて理解できない、子供のころから使っていて、てっきり標準語だと思っていた言葉を会社で使ったら、東京の人に通じなかった、といった日常の身近な問題に直結します。

他方、ソト(諸外国語の観点)から見ると、たとえば、日本語は世界で一番難しいことばだといわれることがあるが、本当だろうか、日本語の文法や音声は世界の諸言語とどのように異なり、どのように似ているのだろうか、といったことが問題になります。こういった疑問に答えるためには、日本語の独自性と同時に、他言語との共通性を探っていかねばなりません。言語学の研究では、このような観点は当たり前で、昔からやってきたことですが、国立国語研究所としては新しい取り組みなのです。

## 「日本列島の言語」の研究へ

国語研究所というと、国語すなわち日本語の研究所だと思いがちです。しかし、日本列島には日本語のほかにも、古くから使われている言語があります。それは、沖縄県の島々で使われている琉球諸語と、現在では北海道のごく一部にだけ残っているアイヌ語です。琉球諸語は日本語の方言と見なされることもありますが、最近の言語学研究によると、日本語と琉球諸語は一つの親(日琉祖語、英語ではProto-japonic)から分岐した姉妹語だということがほぼ確定されてきました。これに対して、アイヌ語は日本語および琉球諸語とは異なる系統であるという考え方が一般的です(図2)。



図1

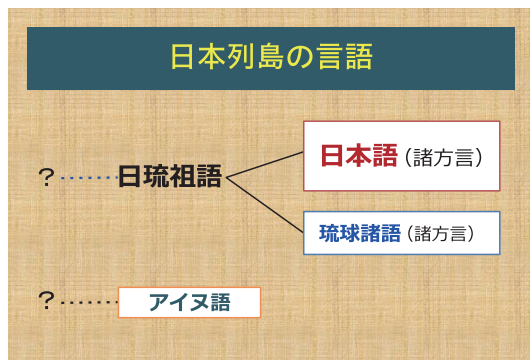


図2



2)。しかしそれでも、アイヌ語が縄文時代には日本列島の広い地域で話されていた有力な言語の一つであったことは間違いのないところです。アイヌ語と琉球諸語は、消滅危機言語に関するユネスコの報告でも危機の度合いが高い言語として取り上げられていて、いま研究を進めなければ、あとで取り返しのつかない事態になってしまいます。また、琉球諸語、アイヌ語の研究を深めることによって、これまでは系統的に孤立した言語とされてきた日本語そのもののルーツを解明する手がかりが得られるかもしれません。沖縄語を中心とする琉球諸語の研究は、旧国語研究でも多少はありましたが、地球上のいたるところで起こっている言語多様性の危機というグローバルな観点から捉える姿勢は新しいものです。さらにそのなかに、アイヌ語を含めていることは、国立国語研究所の歴史において画期的なことと言えます。

## 日本語の将来にむけて

アメリカ言語学会の機関誌で言語学では世界最高峰の専門誌である *Language* に、Michel Krauss の “The World's Languages in Crisis” (1992) という論文があります。そこでは、地球上で約七千ある言語のうち、どれくらいの言語が滅亡しかけているか、どれくらいが将来永続的に繁栄していくかといったことが論じられていて、それによると世界の言語は大まかに三つのグループに分かれます。

- ① 二〇～五〇%は絶滅寸前の状態（言語を受け継ぐ子どもがいない）。
- ② 四〇～七五%は消滅の危機に瀕した言語で、このままいくと①になってしまふ。アイヌ語は①、琉球諸語は①ないし②に該当します。
- ③ 残りわずか五%が将来も安泰な言語です。

ここから単純に計算すると、二一世紀の終わりには、地球上にはたった三五〇程度の言語しか残らないという予想になります。言語の多様性は文化の多様性、ひいては人間そのものの多様性を意味しますから、この推測は極めて深刻な問題をはらんでいます。一五〇〇年以前は地球上に一万を超える言語があったといわれますが、文明の発達とともに少数民族の言語がどんどん淘汰されていくのです。

では、みなさん、日本語そのものはどうなると思われるでしょうか。

多くの人たちは、「自分が普段使っている日本語が①や②の状態になるなんて、考えられない。日本語は将来も安泰だ」と思っているのではないだろうか。ほんとうにそうでしょうか。

単に、日本の人口が将来、大幅に減ることだけが理由ではありません。小説家であり評論家の水村美苗さんは、あまり小さいときから英語を教えると、子供の日本語力に影響があるのではないかと懸念から、日本語の将来について警鐘を鳴らしています（『日本語が減びるとき』二〇〇八年）。また、エスキモー語を専門とする言語学者の宮岡伯人さんは、まさしく消滅危機に直面しているエスキモー語と同じように、日本語も将来そのような可能性があることを危惧しています（『語』とはなにか・再考』二〇一五年）。

言語の消滅危機の原因は、単に人口が減ることだけではありません。言語は、人工的につくったものではなく、人間生活のなかで自然に生まれ、発達してきたものですから、時間とともに変化していくことは当然ですし、地域や年齢、性別などによって違いがあるのも当然です。このような言語の内的変化は、話者自身も意識することがあります。しかし、言語は内的原因で変化するだけでなく、外的な原因、特に諸外国語との接触によっても変化します。このことは、案外気がつかないものです。

現代の日本語の中にカタカナ言葉（借用語）が多いことは自明ですが、カタカナという目に見える形でないところでも、英語的な発想が入ってくるという可能性があります。たとえば、代名詞は英語学習の初歩において、*he*「彼」、*she*「彼女」と、*I*「私」との関係として教えられることが多く、この教授法では日本語の「彼、彼女」が持つ独特のニュアンスが切り捨てられてしまいます。その結果、たとえば日本人の大学生が自分の先生のことを「彼は……」といったり、日本人の子どもが自分の母や姉のことを「彼女は……」といったりする、といった日本語として不自然な用法がだんだんと広がってきます。

もし将来、このような外国語からの影響が日本語の語彙や文法全体にまで及ぶとすると、そのときの日本語は、はたして「日本語」と呼べるのだろうか、と考え込んでしまいます。そのような事態が起こるかどうかは別にして、国立国語研究所の使命は、現在および過去の日本語の豊かな姿を将来に引き継ぐことであると考えています。

## まとめ

新しい国立国語研究所は、ウチとソトの複合的観点を取り入れることで、この六年間で次のような進化をとげました。

- 一、ウチの観点を精緻化することにより、標準語や方言の姿が詳細にわかるようになりました。（具体例は講演1、2を参照）
- 二、ソトの観点をとることで、日本語に特有とされるさまざまな言語現象でも、世界諸言語と同じ土俵で研究することにより、その本質が理解されるようになりました。（講演4、5）
- 三、非母語話者（外国人）の日本語学習を、ウチの視点とソトの視点が接触し、衝突する場であると捉えることで、日本語教育についても新たな研究の方向が見えてきました。（講演5）
- 四、いろいろな研究成果を国内だけでなく、積極的に海外にも発信することで、日本語研究および日本語そのものの国際的普及を促進する足がかりができました。なかでも、過去から現在までの国内外の日本語研究を展望し、日本語から世界の言語研究に貢献しようとする日本語研究英文ハンドブックシリーズ（図3）の国際出版が開始されたことは、とかく国内に閉じこもりがちな日本語（国語）の研究にとって大きなブレイクスルーになるはずです。

以上をもって、私の開会の挨拶とさせていただきます。引き続き、講演をお楽しみください。



図3

# 〈ウチから見た日本語の多様性〉 危機方言はおもしろい！方言にひそむ多様な発想法

時空間変異研究系教授 木部 暢子

## はじめに

私は時空間変異研究系に属しています。時空間というと、よく「三次元のことを研究しているんですか」といわれたり、工学部の先生に非常に親しみを持たれたりしますが、時間的な変化、つまり日本語の歴史と、空間的な変異、つまり方言を研究する部門です。ただ、時間と空間は、ことばのうえでも密接につながっているところがあり、古いものが地方に残るとよくいわれていますから、あながち三次元の世界ではないとはいえないと思っています。近年、このような古い方言が消滅の危機にあり、多くの言語や方言が消滅するといわれています。それらをできるだけ記録し、できれば消滅しないように子どもたちに伝えていく活動をしています。

二〇〇九年、ユネスコは世界の言語、約六千のうち約二、五〇〇が消滅の危機に瀕していると発表しまし

- 2009年、ユネスコは世界の言語約6,000のうち約2,500が消滅の危機に瀕していると発表しました。

UNESCO Endangered languages

<http://www.unesco.org/new/en/culture/themes/endangered-languages/>



図1 はじめに



木部 暢子(きべ のぶこ)

時空間変異研究系教授。博士(文学)(九州大学)。各地でお年寄りに地域のことばを尋ね、それを記録しています。20年くらい前までは、「方言は悪いことば」「方言なんて調べてどうするの」と言われることがありましたが、最近は「方言を残したい」という人が多くなりました。お年寄り子どもが方言で会話できるような社会が戻ってくるといいな、と思っています。専門は、日本語方言学。音声学。音韻論。主な著書に『西南部九州二型アクセントの研究』(2000)、『そうだったんだ！日本語：じゃって方言なおもしろか』(岩波書店、2013年)、『シリーズ日本語史1 音韻史』(共著、岩波書店、2016年)などがある。



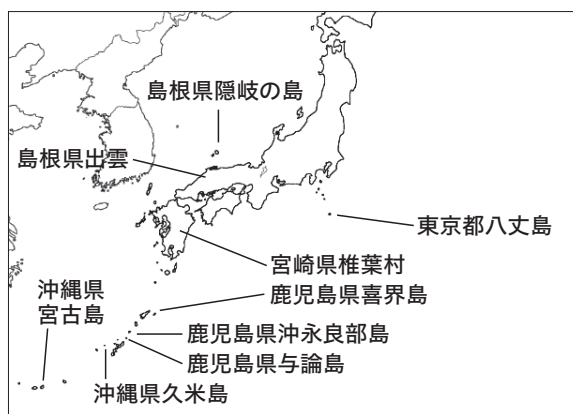


図2 調査場所

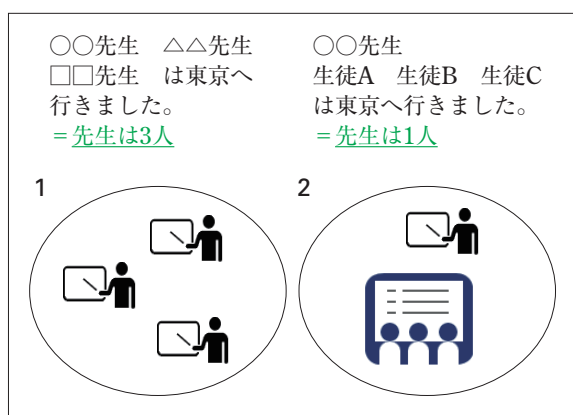


図3 クイズ1「先生たちは東京へ行きました。先生は何人でしょうか」

私の出身は福岡県北九州市です。東京や大阪、北九州などの方言をひとまとめにして本土の方言といっています。比較的、共通語に近いことばをしゃべっています。私も「先生たちは東京へ行きました」と聞くと、図3の1のパターンを思い浮かべます。しかし、与論島では、「先生は一人です」といわれたんです。先生のほかに生徒が三人一緒に行ったんだと。これは図3の2のパターンです。よく考えたら、共通語の「先生たち」は、先生一人とクラスの生徒三人が東京へ行ったときも使えます。私の北九州方言もそうです。

先生は二人以上ということになります。○先生、△先生、□先生の三人がいますから、先生は二人以上ということになります。図3の1は、があつたんです。図3をご覧ください。図3の1は、

た。図1は、近いうちに消滅するといわれている言語の所在地を示しています。バルーンがたっていないところは砂漠や山岳地帯ですから、人が住んでいる地域は、ほとんど危機言語だけであることがわかります。そのなかには、日本で話されている八つの言語が含まれています。北からアイヌ語、八丈語、奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語です。私は普段は南のほうの方言を専門に研究しています。この六年間に調査した場所を図2に示します。きょうはそのなかで奄美語のカテゴリーにはいる鹿児島県の喜界島と、国頭語のカテゴリーにはいる与論島のことについて、フィールド調査で経験

した楽しいお話をして、皆様方にもフィールドの楽しさを味わっていただきたいと思っています。与論島での経験―複数には二種類ある―今日は、クイズを三つだします。最初のクイズは、「先生たちは東京へ行きました。先生は何人でしょうか」です。先生は一人だと思う人。……。いらつしやいませんね。ほとんどの方は、先生は二人以上と思われますよね。私もそう思っていました。ところが、沖縄県との県境で、沖縄本島の北が手の届きそうなところ

なぜ、与論で「先生は一人です」といわれたかというと、与論方言では、1と2で異なることばを使うからです。先生が二人以上いるときは、**図4**で赤く書いたところ（この文書では太く書いたところ）を高く発音して、「センセイターヤ、東京カティ イエータン」といい、先生一人と生徒三名の場合は、「センセイターヤ 東京カティ イエータン」といい、アクセントが違います（「センセイターヤ」の「ヤ」は「は」に当たる助詞です）。与論の話者は、2の場面を想定していたのです。最初、「センセイター」と「センセイター」の区別があるなんて思ってもいませんでした。与論島に行つて、「先生たちっていったって二種類あるよ」といわれ、びっくりしたわけです。

まとめると、次のようになります。複数には「同類の人が複数」という複数（正常複数）と、同類ではないけれど「近い関係の人が複数」という複数（近似複数。連合複数ともいわれますが、ここでは近似複数を使います）の二種類があります。英語のsをつける複数は正常複数です。与論方言では、この二つをアクセントで「センセイター」と「センセイター」のように区別します。一方、共通語は、正常複数と近似複数を区別しません。ただし、区別しないから二種類の概念がないのかというと、そうではありません。その場に応じて、「せんせいたち」がどちらの意味を指すか、判断しているわけで、この二つをきちんと理解しています。しかし、さきほどのクイズで「先生は一人」という回答がなかったように、二種類の複数形があることを、ふだんはあまり気にしていません。

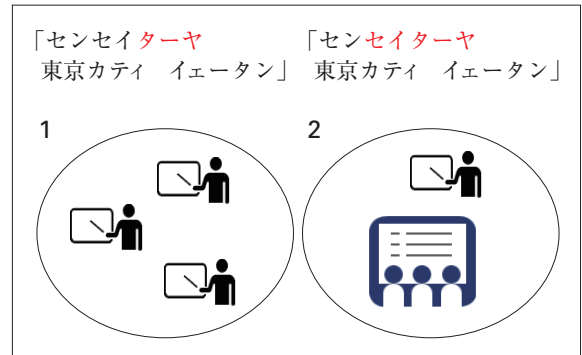


図4 「先生たちは東京へ行きました。」  
鹿児島と与論方言では……

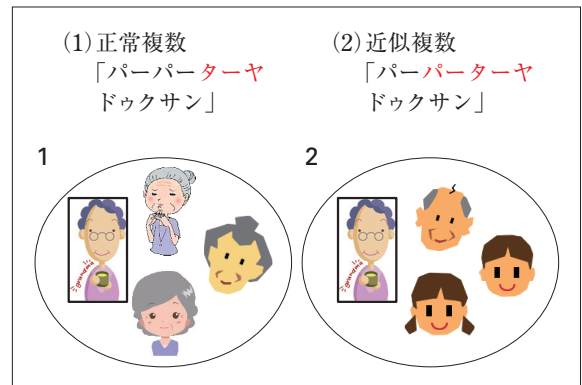


図5 与論方言「おばあさんたちは元気です」

### 与論方言の親族名称にみる正常複数と近似複数

このような例はたくさんあります。たとえば、与論方言で、「おばあさんたちは元気です」というとき、やっぱり二つあります（**図5**）。一つは正常複数で、花子お婆ちゃん、喜久子お婆ちゃん……たちが元気なときは、「パーパーターヤ ドウクサン」といい、近似複数のお婆さんとお爺さんと孫たちという場合は、「パーパーターヤ ドウクサン」といいます。

このような使い分けは親族名称に多くなっています（**図6**）。たとえば、授業参観にお父さんとお母さんがたくさんきていて、先生が「は



|        | 単数   | 正常複数             | 近似複数               |
|--------|------|------------------|--------------------|
| 「お婆さん」 | パーパー | パーパーター           | パーパーター             |
| 「お父さん」 | アチャ  | アチャター            | アチャター              |
| 「お母さん」 | アンマー | アンマーター           | アンマーター             |
| 「おばさん」 | フバ   | フバター             | フバター               |
| 「お兄さん」 | ヤカ   | ヤカター             | ヤカター               |
| 「先生」   | センセイ | センセイター           | センセイター             |
|        |      | ↓<br>〇〇が<br>いっぱい | ↓<br>〇〇と<br>その仲間たち |

図6 親族名称にはこのような例が多い

|      | 単 数  | 正常複数        | 近似複数          |
|------|------|-------------|---------------|
|      |      | 〇〇が<br>いっぱい | 〇〇と<br>その仲間たち |
| 共通語  | せんせい | せんせいたち      |               |
| 与論方言 | センセイ | センセイター      | センセイター        |

図7 与論方言の複数形をまとめると……

い、お父さんたちはこっち。お母さんたちはこっち」と誘導するよう  
なとき（正常複数）、共通語では「お父さんたち」といいます。また、  
お父さんを代表とする家族みんな元気ですというとき（近似複数）も  
「お父さんたち」です。それに対し与論島では、正常複数の場合は「ア  
チャター」、近似複数の場合は「アチャター」といいます（与論方言で  
は「お父さん」を「アチャ」といいます）。

親族名称には、このような関係がほとんど成り立ちます。たとえば、  
お婆さんの単数は「パーパー」ですが、正常複数は「パーパーター」、  
近似複数（お婆さんとその仲間たちみたいな複数）は、「パーパーター」

です。お母さんは「アンマーター」と「アンマーター」と区別します。  
正常複数のときは、どうも、アクセントが「ター」のところから上が  
り、近似複数のときは、単数形のアクセントに「ター」がくっついてい  
るようです。

この区別があることを与論島に行っているいろいろな場面で経験しまし  
た。共通語では概念としては区別していますが、どの場合も同じ単語  
でいつてしまします。共通語とは違う言語をみると、共通語のシステ  
ムがまた新たに見えてくる、そういう楽しみがあるということです。

与論方言をまとめると、図7のようになります。正常複数と近似複  
数は、共通語ではどちらも「たち」です。与論方言では、アクセントが  
違ってきます。

## 喜界島での経験—二種類の「わたしたち」

二つめのクイズは、「『私たち』は罪人です。—『あなた』は罪人です  
か？」です。これは、喜界島で経験したことです。

喜界島は奄美の一番北の端の島で、その北は点々と島が存在するト  
カラ列島です。方言調査のとき、人称代名詞の「わたし」とか「あな  
た」は基本項目ですので、必ず「わたし」はなんと言いますか」「わた  
したち」はなんと言いますか」「あなたはなんと言いますか」「あな  
たたち」はなんと言いますか」と聞きます。「わたしたち」は 喜界島  
でなんと言いますか」と尋ねたところ、「わたしたちっていったって、  
何種類もあるよ」といわれたのです。

たとえば、島に調査に行くと、島の人たちが歓迎会を開いてくれま

す。そこでのスピーチで、「私たちは東京から来ました」といいます(図8左)。そして、調査が終わって帰るとき送別会を開いてくれ、そこでのスピーチで、「あー楽しかったです。私たちは一緒に踊りを踊りましたね」といいます(図8右)。喜界島では、宴会の最後は必ず踊ります。三線を弾いてみんな一緒に踊るのが、締めくくりになります。そのようなことが調査のとき何度もありました。そこでそのようなスピーチをするわけです。共通語では、来たときの挨拶も「わたしたち」、帰るときの挨拶も「わたしたち」です。ところが、喜界島方言では、来たときのスピーチは「ワンナー」といい、送別会で楽しかったねというときは、「ワーチャ」といわなければいけないのです。どう違うかを、図9に示しました。「私たちは東京から来ました」というときの「私たち」は、聞き手を含みません。「私たちは一緒に踊りを踊りましたね」というときは、聞き手を含んでいます。この二つを言い分けるわけです。聞き手を含まない「私たち」は、聞き手を除外しているの、「除外のwe」と呼び、聞き手も含む「私たち」は、「包括のwe」と呼びます。これを間違ったら大変なことになります。島に来たときの挨拶では、「ワンナー」といわなければならぬのに、ちょっと覚えてたての島ことばを使おうと思って、「ワーチャ」というと、聞いている島の人たちは、「私は東京の人ではないよ」ということになります。また、別れの挨拶で、「ワンナー」というと、「えっ、結局親しく

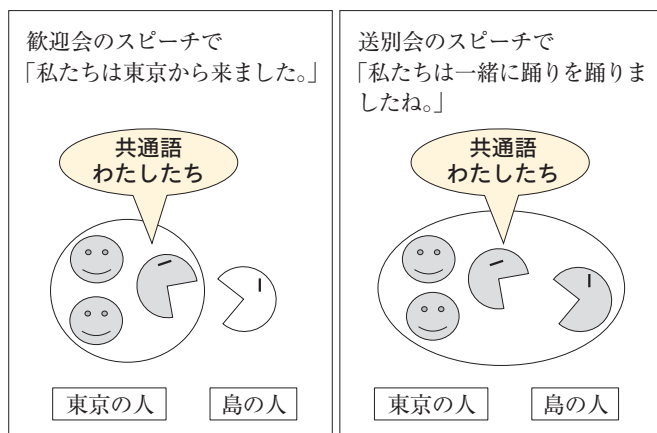


図8 共通語の「わたしたち」

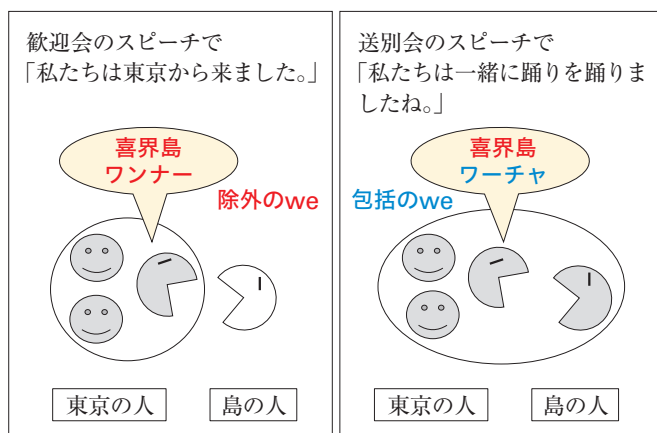


図9 喜界島方言の「わたしたち」

## 世界の言語にみる「私たち」

いろいろな国のことばを見ると、欧米にはこの二つを区別しない言語が多くなっています。英語もドイツ語、フランス語も区別しません(図10)。

中国語では、「我們(ウォメン)」と「咱們(ツァメン)」の二つの「私

なれなかったのか」と思われてしまうわけです。

- ・英語の we、ドイツ語の wir、フランス語の nous は **除外**、**包括**の両方を表す。
- ・中国語の「我們(ウォメン)」は「**除外の we**」  
「咱們(ツァメン)」は「**包括の we**」
- ・アフリカの諸言語にも「**除外の we**」と「**包括の we**」の区別がある。
- ・イエスベルセン(1860～1943)は次のような話を引用している。  
ある宣教師が黒人たちに向かって  
「**われわれ**は、みな罪人です。われわれは、みな改心しなければなりません」と言ったとき、「いま私が語りかけているみなさんを除いて、わたしども」という意味の「われわれ」ということばを使ってしまった。(イエスベルセン著 安藤貞雄訳『文法の原理 中』185頁)

図10 2種類の「わたしたち」

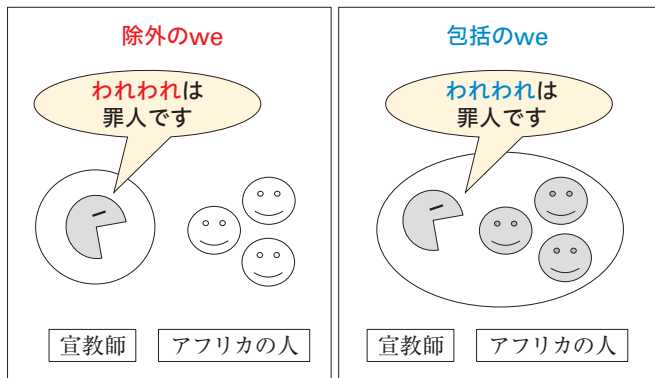


図11 「除外の we」、「包括の we」

- 日本語に「除外の we」と「包括の we」の区別がないか、いろいろ探してみました。たとえば、「私たち」のほかに「私ども」「手前ども」という言い方があります。三省堂の『言語学大辞典』から引つ張ってきた例ですが、宿の主人がお客さんに向かって、
- a 「私たちは一〇年前からここで営業いたしております」。これは「除外の we」でお客さんは含みません。
- b 「私どもは一〇年前からここで営業いたしております」。これも「除外の we」です。
- c 「手前どもは一〇年前からここで営業いた

### 共通語には除外、包括の区別がないか

日本語に「除外の we」と「包括の we」の区別がないか、いろいろ探してみました。たとえば、「私たち」のほかに「私ども」「手前ども」という言い方があります。三省堂の『言語学大辞典』から引つ張ってきた例ですが、宿の主人がお客さんに向かって、

「たち」があります。「我們」は「除外の we」で聞き手を含みません。「咱們」は、あなたも含んだ「包括の we」です。ただし、中国語では最近、この二つの使い分けが混乱しつつあるという話も聞きます。

アフリカの諸言語にも「除外の we」と「包括の we」の区別があります。いまから一〇〇年ほど前の言語学者、イエスベルセン(一八六〇～一九四三)が、次のようなおもしろい話を引用しています。当時、アフリカはイギリスやフランスの植民地で、キリスト教の普及がさかんに行われていました。あるとき、宣教師が現地の人たちに向かってい

いました。「われわれは、みな罪人です。われわれは、みな改心しなければなりません」と。キリスト教では、人間は原罪を背負って生まれてくるため、みな罪人であると教えます。そのとき、宣教師は「除外の we」(いま私が語りかけているみなさんを除いて、わたしどもという意味)の「われわれ」という現地のことばを使ってしまったのです。ほんとうは、「包括の we」を使わなければいけなかったのに。英語にはこの区別がないので、このような間違いをしたという笑い話です(図11)。私は喜界島にいつて似たような過ちを犯しそうになりましたから、この宣教師の気持ちがよくわかります。

しております」。これも「除外のwe」です。

次に、「包括のwe」の例です。村長の息子が行方不明になったので、ある宿の主人が、大変だ、みんなで捜しに行きましょう、と別の宿の主人たちにいます。

a 「さあ、私たちも手分けして捜しましょう」。これはOKですね。聞いている人を含めた「包括のwe」です。

b 「さあ、私どもも手分けして捜しましょう」。これもOKです。もしかして、OKではないという方もいらっしゃるかもしれませんが、村長の息子に対して謙譲の意味が含まれるので、OKだと思います。この二つは「包括のwe」で、聞き手も含みます。では、

c 「さあ、手前どもも手分けして捜しま

しょう」は、どうでしょう。『言語学大辞典』では「だめ」という判断をしています。ただし、私はこれに関して、内省ができません。というのは、「手前ども」ということばを、日常生活で使ったことがないからです。皆様方のなかにも、あまり使ったことのない方が多いかもしれません。使った経験がないので、いいとも悪いともなかなか判断できません。そこで、「手前ども」は考察から外すことにしましょう。そうすると、「私たち」「私ども」は「包括のwe」と「除外のwe」の二つを表して区別がないことになります。

喜界島を境界線として、それより北側は「包括のwe」と「除外のwe」

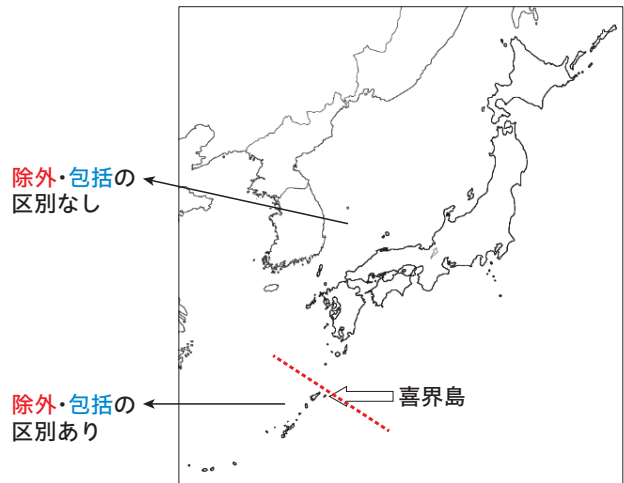


図12 「除外のwe」、「包括のwe」の区別

の区別がなく、南側は区別があります(図12)。奄美・沖縄にも区別がない方言がありますが、一般的に区別があるところが多くなっています。

### 与論島での経験——出来事を人に伝えるときに……

最後に、また与論島の話です。共通語では「聖徳太子は……と言った」とふつうにいいますが、与論島で「聖徳太子は……と言った」というと、「えっ、いつ聞いたの」といわれてしまいます。何が問題かというと、直接、聞いてもないのに、なぜ、「言った」といえるのか、ということです。

「おじさんは『明日海につれていく』と言った」(直接、聞いた)、「聖徳太子は『和を以て尊しと為す』と言った」(直接、聞いていない)の二つの「言った」を、共通語では同じ語形でいいますが、与論島では同じ語形ではいえません。自分がおじさんから直接聞いたときは、「フジョー『アッチャー ウンカティ ソーユン』チ イエータン」といい、聖徳太子のときは、「イエータン」はだめで、「聖徳太子や『和を以て尊しと為す』チチ ウワーチャン」といわなければなりません。「イエータン」を使うと、聖徳太子のことばをじかに聞いたことになり、話手が飛鳥時代に生きていたことになってしまいます。



出来事を人に伝えるとき、与論方言では、「自分が直接見たたり聞いたこと」とそうでないことを言い分けることが徹底しています。たとえば、話し手が「太郎が海に行ったこと」を目撃したときは、「太郎や ウンカティ イキュータン」といいますが、たんなる過去の事実や目撃していないときは、「太郎や ウンカティ イジャン」といいます。「イキュータン」は、関西の「行きよった」にあたります。これが、目撃したことをあらわすようになったのです。

また、話手の過去の経験の「私は 海に行った」も、「ワナー ウンカティ イジャン」といいます。なぜ、自分の経験が「イキュータン」ではなく「イジャン」

かというと、自分のことは自分で見えないからです。つまり、目で見ているか、見てい

ないかが重要なのです。言語学ではこれをエビ

デンシヤリテイ、証拠性といいます。与論方

言はそのことをとって大事にする言語です。

まとめると、次のようになります。与論方言では、直接、見たり

聞いたりしたことで、そうでないことを言い分けます。「行った」は、直接、見たときは「イキュータン」、見ていないときは「イジャン」です。共通語は「行った」しかありません。自分のことは自分で見ることができませんから、自分の経験は「イジャン」です。

## まとめ

三つのお話をしました。最初は、「〇〇がいっぱい」「〇〇とその仲間たち」の二種類の複数形の区別を共通語はしませんが、奄美の与論方言ではするという事です。二つ目は、聞き手を含めるか、含めないかの区別を共通語はしませんが、奄美の喜界島方言ではということ。三つ目は、自分が直接、見たり聞いたことか、そうでないことかの区別を共通語はしませんが、奄美の与論方言ではということ。です。

では、どうして共通語にこの区別がないのか、共通語で言い分けたいときはどうするのか、という疑問がわいてきます。じつはこれがかつとも楽しいのです。ですから、危機方言はおもしろいという表題をつけました。このような方言がなくなってしまうと、こういう発見の楽しみがなくなってしまう。楽しみがなくならないように、できるだけ危機方言を記録し、また伝えていきたいと思っています。皆様方も、できるだけこういう楽しい経験をなさっていただきたいと思っています。ありがとうございます。



## 〈ウチから見た日本語の多様性〉

## 言語研究のインフラ整備

## ～日本語コーパスからみえてきたもの～

言語資源研究系教授

前川 喜久雄

私は、国立国語研究所が開発している言語資源、コーパスについてお話しします。まずコーパスの必要性について触れ、次にこれまでのコーパス整備の経緯とこれからの計画を紹介します。その後、近年に開発したいくつかのコーパスを紹介し、最後にコーパスを使うとどのような検索ができるか検索例をお示しします。

## なぜコーパスが必要か

コーパスとは、言語を研究するために大量の用例を組織的に収集して、コンピュータで効率的に検索できるようにしたデータのことです。それでは、なぜコーパスが必要か。それは言語には大きな多様性があるからです。多様性が大きすぎるので、単に頭で考えているだけでは、言語の実態を把握することができないのです(図1)。

世界に何千種類も言語があるという意味でも言語は多様なのですが、一つの言語、例えば日本語の内部にもさまざまな多様性が認められます。そのような言語内多様性の源はさまざまですが、よく知られているのは歴史的な多様性と地理的な多様性でしょう。言語は時間とともに

に変化します。それが歴史的な多様性を生み出します。変化のなかには日本語独自の变化も、外国語からの影響による変化もあります。古くは中国語、近年では英語が代表的な外国語です。地理的な多様性、つまり方言の問題については、さきほど木部先生のお話のテーマでもあったので、省略します。

言語には創造的使用と呼ばれる変化も生じます。言語、表現には一定の意味があるわけですが、それをあえて変化させて使うのが創造的使用です。最近「やばい」という言葉がポジティブな評価に使われるようになってきているのはその一例です。

その他、近年目立つようになった多様性の要因として、日本語を母語とし



前川 喜久雄(まえかわ きくお)

言語資源研究系教授。博士(学術)(東京工業大学)。音声学が専門ですが、自発音声の研究のために『日本語話し言葉コーパス』(CSJ)の開発に携わったことがきっかけとなっており、1999年来コーパスの設計と実装に深く関係するようになりました。そのため最近では第二の専門として言語資源学をなっています。主な著書は『講座日本語コーパス』(朝倉書店)、A Frequency Dictionary of Japanese(Routledge)、『音声は何を伝えているか』(コロナ社)など。

ない人たちが使う日本語があります。学習者の日本語です。さらに、コンピュータがつくりだす日本語（機械翻訳）も、今後、多様性の源になるかもしれません。

また、何が原因かはよくわからないけれども、ある語にふたつ以上の語形があつて、明瞭な規則性もなしに使われていることがあります。「日本」がニホンかニッポンか、「矢張り」が「ヤハリ」か「ヤツバリ」か「ヤハシ」か、等々。これらは一種の確率的な変動であつて、言語の変異と呼ばれることがあります。

さて、このような言語内多様性を正確に把握したいのですが、はどうやって把握するか。思いつくままに、こんながある、あんなのもあるといつても、正確ではありません。客観的な方法で調べたデータが必要になります。その際、データに求められる特性としては、以

- ・多様性の源
  - －歴史的多様性
    - ・内発的变化
    - ・外国語の影響
  - －地理的多様性
  - －創造的使用
  - －確率的変動（言語変異）
  - －その他
    - ・非母語話者
    - ・機械翻訳

図1 言語内多様性

- ・直観だけでは把握できない（例は後で）
- ・客観的なデータが必要
  - －本当に使われたことのある用例のデータ
  - －対象を偏りなく代表するデータ
  - －できるだけ大量のデータ
  - －検索用の情報がついたデータ
  - －コンピュータで利用できる形式（機械可読形式）のデータ
  - －誰でも利用可能な公開されたデータ



言語コーパス (corpus) の整備  
～言語資源 (language resources) の整備

図2 言語内多様性を把握する手段

下のものがあります（図2）。

まず、頭でつくりだしたものではなく、実際に使われたことが分かっていないこと（実用例であること）。第二に、対象となる言語の一部分だけではなく、全体を偏りなく代表するデータになっていること（均衡性）。第三に、できるだけ大量のデータであること（大規模性）。第四に、検索用のいろいろな情報が付加されていて、コンピュータで検索できること。最後に、データをつくった人だけが利用したり、ある特殊な機関に所属している人間だけが使えるのではなく、誰でもが利用できる公開されたデータであること。

そのような条件を備えたデータのことを、われわれはコーパス (corpus) と呼ぶのです。また、そのコーパスを構築・利用するためのノウハウや検索ツール、さらにはコーパスから二次的に派生された種々の二次的データ（例えば辞書）などもふくめて、言語資源 (language resources) と呼ぶことがあります。

## 国語研によるコーパス開発の経緯

これまでの国語研究所によるコーパス開発の経緯をまとめてみます。国語研究所は一九四八年に創立されました。直後の一九五〇年代から、新聞、雑誌などを対象とした各種の「語彙調査」が実施されています。これは簡単にいえば、共通語の語彙を確定するための基礎調査でした。方法論的には優れたことをやっていたのですが、残念ながらデータを公開



しませんでした。国語研の研究者が使って、結果を報告書にまとめて、それでおしまいでした。その意味でコーパスとはいえません。

国語研がコーパスを開発しはじめたのははるかに遅く、一九九〇年代末からでした。それから現在までに構築してきた代表的な日本語コーパスを図3に示します。

最初に公開したのは『日本語話し言葉コーパス(CSJ)』(構築一九九〇～二〇〇三年度、公開二〇〇四年)でした。これは現代語の話し言葉を対象としたコーパスです。次は、明治から昭和初期にかけての書き言葉を対象とした『太陽コーパス』(構築一九九五～二〇〇四年度、公開二〇〇五年)、『太陽』と

いうのは当時広く読まれた総合雑誌の名前です。三番目の『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』(構築二〇〇六～二〇一〇年度、公開二〇一一年)は、現代語の書き言葉を、書籍・雑誌・新聞・白書・広報紙・ネット掲示板・ブログ・詩歌・法律など幅広く収集したもので、現在もとても活発に利用されている書き言葉のコーパスです。規模はちょうど一億語です。

『日本語歴史コーパス(CHJ)』(構築二〇一〇～)は、奈良時代までさかのぼることのできる過去の日本語を対象としたコーパスで、現在も構築中ですが、一部は公開されており、日本語史の研究者にとっては必須のコーパスになっています。

- ・ 1950年代から各種「語彙調査」を実施してきたがデータは公開しなかった
  - ・ 1990年代末にコーパス開発始動
    - －『日本語話し言葉コーパス(CSJ)』(構築 1999～2003、公開 2004)
    - －『太陽コーパス』(構築 1995～2005、公開 2005)
    - －『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』(構築 2006～2011、公開 2011)
    - －『日本語歴史コーパス(CHJ)』(構築 2010～、段階的に公開)
    - －『国語研日本語ウェブコーパス(NWJC)』(構築 2011～2015、公開 2016 予定)
    - －『多言語母語の日本語学習者横断コーパス(I-JAS)』(構築 2012～、部分試験公開 2016)
- 迫田の発表

図3 国語研によるコーパス開発の経緯

『国語研日本語ウェブコーパス(NWJC)』(構築二〇一〇～二〇一五年)はインターネット上の日本語を大量に収集したもので、規模は二百五十億語あります。来年度(二〇一六年度)に公開の予定です。さらに、きょうのちほど迫田先生のお話しに出てくる『多言語母語の日本語学習者横断コーパス(I-JAS)』もあります。これは、日本語を勉強している人たちの言語行動を記録したコーパスで、近日公開予定です。

ここでもう一度、一九九〇年代末にもどりましょう。その時期に、日本語学の研究者が利用することのできた日本語のデータには図4に示すものがありました。毎日新聞などの新聞社が有償で公開するテキストデータがありました。もう少し古い時代のデータとしては、著作権の切れた文芸作品をもとにした青空文庫が使えました。新潮社が過去の文芸作品をデジタル化した『新潮文庫の百冊』もしばしば利用されましたが、著作権の問題が解消されていたかどうかは不明です。これがすべてです。日本語の全体像を知るには、明らかに偏ったデータです。

そこから二〇年ほど頑張ってきて現在の整備状況を示したのが図5です。さきに説明したように、書き言葉に関しては『現代日本語書き言葉均衡コーパス』があり、話し言葉については『日本語話し言葉コー

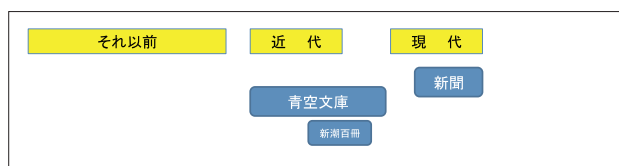


図4 日本語コーパス整備の経緯Ⅰ：1990年代

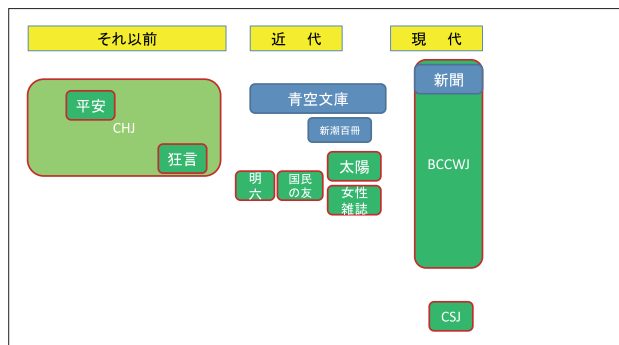


図5 日本語コーパス整備の経緯Ⅱ：現状

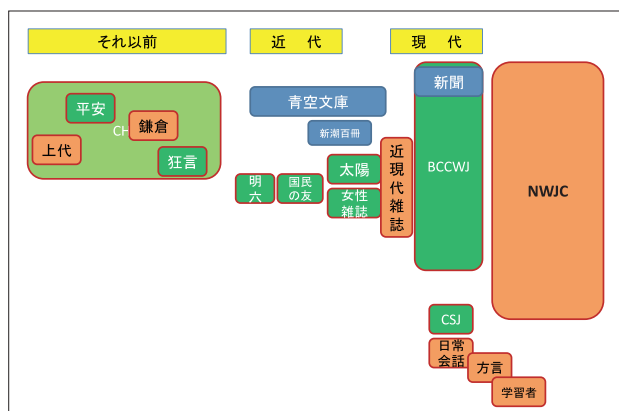


図6 日本語コーパス整備の経緯Ⅲ：2021年の目標

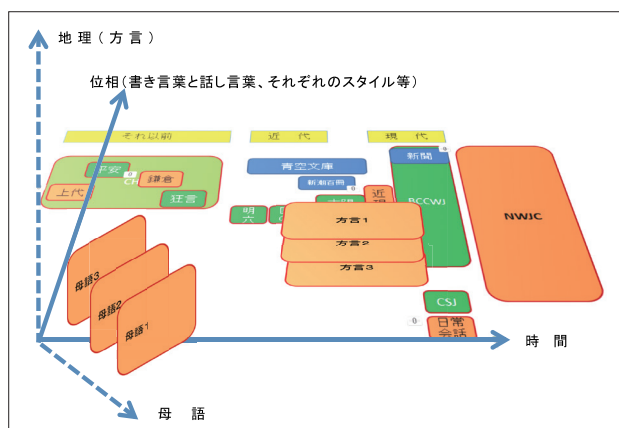


図7 各種コーパスの相互関係

パス』があります。近代語の各種雑誌のコーパス(『明六雑誌』『国民の友』など)にくわえて、『日本語歴史コーパス』のうち、平安時代と室町時代のデータが現時点で公開されています。

このように、二〇年間でかなり進んではきましたが、まだ、いろいろ穴があいています。そこで、これから六、七年の期間になにをするかという、[図6](#)のような目標を立てています。

先ほど触れた、『国語研日本語ウェブコーパス(NWJC)』、対話とか、多人数の会話を記録した、日常会話のコーパス、方言のコーパス、日本語学習者のコーパス(I・JAS)、そして、『日本語歴史コーパ

ス』も上代や鎌倉時代のデータを充実させていき、奈良時代から現代まで、細い線でよいからなんとかつながるように整備する計画です。

もう少し別の見方をすると[図7](#)のようになります。時間の軸があり、話し言葉や書き言葉という、いわゆる位相の軸があつて、その上に地理的な差異、そして話し手の母語の影響をいれる多次元空間が、日本語の内的多様性の全体です。今後そう遠くない時期に、この空間全体を対象として、包括的なコーパス検索を可能にする利用環境を整備していく予定です。

## オンライン検索ツール

さて、こういったコーパスは、公開しただけではあまり活用してもらえません。コーパスのデータは複雑な構造をしているので、検索にはかなり高いコンピュータリテラシーが必要とされるからです。そこ

**文字列検索ツール**  
『少納言』2007

- ・登録不要
- ・BCCWJ(1億語)が対象

**形態論情報検索ツール**  
『中納言』2010

- ・要登録(無償)
- ・BCCWJとCHJが対象

**超大規模コーパス検索ツール『梵天』**  
(開発中、2016公開予定)

- ・NWJCに対する、文字列検索、形態論情報検索、係り受け検索

**図8 オンライン検索ツール**

で『現代日本語書き言葉均衡コーパス』からは、検索ツールもあわせて公開し、継続的に作りこむ努力をしてきました。現在、『少納言』と『中納言』という二種類のオンライン検索ツールが稼働しており、今年の秋からは新たに『梵天』というオンラインツールも公開する予定です(図8)。

一番広く使われている検索ツールは『少納言』です。これは登録不要でどなたにもお使いいただけます。現在は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のデータ一億語を対象としており、年間で八〇万回程度利用されています。

『中納言』では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』と『日本語歴史コーパス』のデータを形態論の情報を利用して検索することができます、年間で三〇万件ほどの検索があります。近日中に『多言語母語の日本語学習者横断コーパス(I・JAS)』も『中納言』で検索可能になる予定です。『中納言』の利用も無償ですが、著作権保護の関係で利用申請をお願いしています。

図9は『中納言』の検索結果画面です。検索しているのは、動詞「そびえる」の終止形が、それ自身で文末を構成している例です。画面が細かすぎてよく見えないと思いますが、画面に表示されている用例をみると検索対象の動詞は「そびえる」と仮名で表記されていたり、「聳える」と漢字仮名交じりで表記されていたりします。そのような表面的な表記の相違に惑わされずにすべての用例を検索できるのが、解体論情報を使った検索の強みです。もちろん種々の活用形の違いなども吸収することができます。ちなみに『現代日本語書き言葉均衡コーパス』には、どこが文末かの情報も付与されているので、それを検索に

13 件の結果が見つかりました。

□ テーブルの幅を固定 短 ▾

(検索対象語数: 124,100,964、空白・記号・補助記号を除いた検索対象語数: 104,911,460)

| サンプル ID    | 前文脈  | キー   | 後文脈   | 活用形       | レジスター    | 執筆者       | 書名/出典         | 出版者                 | 出版年  |
|------------|--|------|---|-----------|----------|-----------|---------------|---------------------|------|
| LBs2_00036 | を[潜ると直ぐ]中央[広場]で、[堂々]たる[大階段]上[に]街の[シンボル]、ドゥオモが]   | 繰える  | 。#十[世紀]起源、十[三]世紀[拡張]、十[八]世紀[バロック]様式[に]改築、十[九]       | 終止形<br>一般 | 図書館・書籍   | 斐 澄 (著)   | イタリア再発見       | 中央公論事業出版            | 2004 |
| PM31_00272 | 施設「あかつき」の[村]は[小高い]丘の[上]にある。#背後[に]は[赤城]連峰が]       | そびえる | 。#村の[入り口]には、[門]も[柵]もない。[村長の]石川[龍也]神父。               | 終止形<br>一般 | 出版・雑誌    | 潮川 正仁 (著) | 暮しの手帖         | 暮しの手帖社              | 2003 |
| OY15_03179 | 大分[由布市]湯布院[町]([旧国]豊後[国]に[ある]温泉[で]すぐ[そば]に]        | 繰える  | 。#由布[岳]の[恵み]を[受けた]豊富な[湯量]を[誇る]かつて[は]ひなびた[温泉]で[団体]観光 | 終止形<br>一般 | 特定目的・ブログ |           | Yahoo!ブログ     | Yahoo!              | 2008 |
| LB02_00097 | 間の[進行]方向[左]に[男体山]([二千四百][八十四]メートル)などの[日光]連山が]    | そびえる | 。#鬼怒川[川]は[栃木]県[北西部]の[山地]に[みなもと]を[発し]、[茨城]県[南西部]で    | 終止形<br>一般 | 図書館・書籍   | 竹内 均 (著)  | 竹内均の日本の地誌     | ニュートンプレス            | 2000 |
| PB56_00113 | の[晴れた]日[など]は[電車]の[バック]に[雪]を[貰]いた[三千]メートル級の[山々]が] | そびえる | 。#東京[に]東京[急行]電鉄が[世田谷]の[下町]に[世田谷線]を[運行]するが、[環状]7     | 終止形<br>一般 | 出版・書籍    | 谷川 一巳 (著) | ローカル線こだわりの旅   | 角川学芸出版;<br>角川書店(発売) | 2005 |
| LBK2_00051 | 入ったのだ[な]、[と]いう印象を[オレ]に[与えた]。#前方[は]険しい[山]が]       | そびえる | 。#右側を[谷]に[して]、[登って]きた[時]は[りり]急な[坂]を[下っ              | 終止形<br>一般 | 図書館・書籍   | 池田 拓 (著)  | 南北アメリカ徒歩縦横断日記 | 無明舎出版               | 1996 |
| PB49_00244 | 。#現在[の]社殿[は]伊達家[が]造営[したもの]で、[二百][二]段の[石段]が]      | そびえる | 。#境内[にある]シオガマクラ[は]国の[天然記念物]に[指定]されて[いる]。[塩竈]神社      | 終止形<br>一般 | 出版・書籍    | 実著者不明     | 奥の細道          | 学習研究社               | 2004 |

動詞「そびえる」の終止形がそれ自身で文末を構成している例

図9 『中納言』の検索結果画面

図10 『中納言』：検索条件指定画面

利用できます。

図10は、『中納言』の検索条件指定画面です。単語が「そびえる」、活用形が終止形で、文末から二語以内にある例を探せ、と指定しています。このような指定を行うと、内部的には検索式が形成され(図11)、これを保存することができ、後日、同じ検索を実行することが可能になります。

図12は『国語研日本語ウェブコーパス』のために開発中のオンライン検索ツール『梵天』の画面です。動詞の「そびえる」を検索の対象としていますが、それだけでなく、山がそびえる、ビルがそびえる、のように「名詞+が」が「そびえる」を修飾している例

(両者が係り受けの関係にある例)を検索しています。図13が検索結果です。係り受けの関係にある語は隣接しているとは限りません。たとえば、「櫓がひときわそびえる」のように、あいだに一語入っている場合がありますが、このような用例も検索できます。なかには、「レインボーブリッジが、その名の通り虹のような空に弧を描いて東京湾の出口に高くそびえている」のように、遠距離の係り受けが生じることもあります。これらも一網打尽にひっかけることができます。

## コーパスが捉えた現代日本語の変異

さて、ここからはコーパスを利用して現代日本語の多様性の実態を調べてみることにしましょう。とりあげるのは、いずれも内省するのが難しい例です(図14)。

最初に「NHK」はどのように発音されているでしょうか？ 少し考えてみてください。いろいろな発音の仕方がある

キー：(語彙素 = “聳える” AND 活用形 LIKE “終止形%”) WITHIN 2 WORDS FROM 文末 WITH OPTIONS unit= “1” AND tglBunKugiri= “#” AND tglWords= “20” AND limitToSelfSentence= “0” AND tglKugiri= “|” AND endOfLine= “CRLF” AND encoding= “UTF-16LE” AND tglFixVariable= “2”

動詞「そびえる」の終止形がそれだけで文末を構成している例を検索した際に自動生成される検索式。保存して再利用できる。

図11 『中納言』の検索式

超大規模corpus検索システム (仮称)

文字列検索 品詞列検索 係り受け検索

### 係り受け検索

0 1

<表層形>  
名詞  
<品詞2>  
<品詞3>  
<品詞4>  
<活用型>  
<活用形>  
語彙素読み  
語彙素

が

<品詞1>  
<品詞2>  
<品詞3>  
<品詞4>  
<活用型>  
<活用形>  
語彙素読み  
語彙素

1:

<表層形>  
<品詞1>  
<品詞2>  
<品詞3>  
<品詞4>  
<活用型>  
<活用形>  
語彙素読み  
語彙素  
聳える

URLドメイン

※ac.jpなど末尾2パート

検索

検索条件を初期化する

「名詞+が」が「そびえる」を修飾している(係っている)例の検索

図12 『国語研日本語ウェブコーパス』オンライン検索ツール『梵天』



ことはわかると思いますが、どれくらいあつて、どれが一番多いでしょうか。

また、いわゆる、ら抜きことばの「来られる」と「来れる」は、話し言葉で検索したとき、どっちが多いか？ これについては、皆さん意見が一致すると思いますが、どれくらい多いかも考えてみてください。

さらに、動詞に「です」がつく、「読むです」「行くです」の形。話し言葉で使う人はいそうですが、書く人はいるでしょうか？

もう一つ、可能の意味で「読める」「行ける」ではなく、「読めれる」「行けれる」と書く人はどのくらいいるか？ そんな人はいないと思うかもしれませんが、実はいるんですね。

そして、「～しそうにない」と「～なさそう」はどちらが多いか？ 「～すべきでない」と「～しないべき」はどうか？ 少し考えてみてください。

では、これから実際の検索結果を紹介합니다。まず、「NHK」については、

|    |   |   |  |
|----|---|---|--|
| 22 | 名詞 助詞<br>[路地の] [彼方に]  | 名詞 名詞 助詞<br>[高層ビルが] [動詞 助詞<br>そびえて]   |  |
| 23 |   | 名詞 助詞 副詞<br>[櫓が] [ひとざわ]<br>動詞 助詞 動詞 助動詞<br>[聳え 見え ます]   |  |
| 24 |   | 名詞 助詞<br>[連山が] [形容詞<br>遠く] [動詞 補助記号<br>聳え、]   | 名詞 名詞 名詞 助詞 助詞<br>[反対側正面に] [神社の] [鳥居越し<br>動詞 名詞 名詞 名詞 助詞<br>に] [標高] [504mの] [八剎山<br>補助記号 名詞<br>(観音)] |
| 25 | 名詞 名詞 助詞<br>[煉瓦造りの] [城壁で] [囲まれ]<br>名詞 助詞 助詞 形容詞 接尾辞<br>[城塞に] [は] [高] [80mの]<br>名詞 名詞 助詞 名詞 名詞 助詞<br>[トロイツカヤ 塔 など] [19の] | 名詞 助詞 動詞 助詞<br>[尖塔が] [そびえて<br>動詞<br>いる]   |  |
| 26 | 名詞 助詞<br>[予想は] [外れまし た が、]<br>助詞 連体詞<br>[で] [大きな]   | 名詞 名詞 助詞<br>[レインボーブリッジが]<br>補助記号 連体詞 名詞<br>、 [その] [名<br>助詞 名詞 名詞 助詞 形容詞<br>の] [通り 虹 の よう<br>助動詞 名詞 助詞<br>な] [空に] [名詞 助詞<br>弧 を] [描いて] [名詞 接尾辞 助詞 名詞<br>東京 港 の] [出口<br>助詞 形容詞 動詞<br>に] [高く] [聳え<br>助詞 動詞<br>ている] | 名詞 助詞 形容詞 名詞 助動詞<br>[ことは] [良い] [ことです]  |

図13 係り受け検索結果の画面

- ・「NHK」はどのように発音されているか？
- ・「来られる」と「来れる」は話し言葉でどちらが多いか？
- ・「読むです」「行くです」等と書く人はいるか？
- ・「読めれる」「行けれる」は？
- ・「～しそうにない」と「～しなさそう」はどちらが多いか？
- ・「～すべきでない」と「～しないべき」は？
- ・Etc.

図14 内省してみてください

| 発音      | 頻度  |
|---------|-----|
| エヌエチケー  | 132 |
| エネーチケー  | 24  |
| エヌエッチケー | 9   |
| エヌエイチケー | 7   |
| エヌエチケ   | 3   |
| エネーチケ   | 3   |
| エネエチケー  | 2   |
| エヌエスケー  | 1   |
| エヌチケー   | 1   |
| エネーシケー  | 1   |

←発音辞書の見出し

←発音辞書の見出し

図15 『日本語話し言葉コーパス』の検索結果

次は、話し言葉で「来られる」と「来れる」のどちらが多いか。これはいうまでもなく年齢差と関係しています。図16は、横軸が話者の生まれた年代を示しています。このグラフの左半分は文化庁の国語課が二〇〇一年に実施した世論調査のデータで、ご覧の通り、「来れる」の抜き言葉がどんどん増えてきて、一九七〇年代生まれの人のグループでは伝統的な「来られる」を逆転しています。これに対して、『日本語話し言葉コーパス』で

15の結果が得られます。これは『日本語話し言葉コーパス』に記録された日本語の独話データの分析ですが、一位は「エヌエチケー」で、圧倒的に高い数字を示しています。ご覧のように圧倒的な一位なのですが、これをあてられる人はほとんどいません。

日本語の発音辞典として有名なNHKのものと三省堂のものを調べてみると、一位の「エヌエチケー」だけでなく、二位の「エネーチケー」もみだしのついでに三位の「エヌエッチケー」と「エヌエイチケー」がでてくるだけです。辞典にはそれぞれの編集方針がありますから一概に批判はできませんが、実態を捉え損ねていることはたしかです。

分析すると、図16右の結果となります。全体のパターンは同じだと思われるかもしれませんが、逆転の時期が三〇年ズレています。一九四〇年代生まれの人は、二〇〇〇年前後に調べたとき、すでに逆転しています。アンケートで意識を調べた場合と、実際の言語行動を調べるのでは、このようなズレがでてきます。これは言語調査に携わる者にとって非常に重要な問題だと私は考えています。

ここからは書き言葉の例になります。まず、「読むです」「行くです」等の「動詞+です」の形(図17、1行目)。これを『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で調べると、一億語に対して八二例が見つかります。それに対して、二五〇億語の『国語研日本語ウェブコーパス』の検索では一二、〇〇〇例近くみつかります(念のために注意しておく『国語研ウェブコーパス』は現在インデックス作成中であり、二五〇億語全体が検索されているとはかぎりません。以下同様です)。

図18に『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索結果の一部を示しました。村上春樹や柳田邦男といった有名な著述家の書いた文章が含まれています。村上春樹さんの小説『世界の終わり』とハードボイルド・ワンダーランド』にてでくる例は、マッドサイエンティストの「博士」が変なしゃべり方をしているもので、いわゆる役割語です。一方、柳田さんの例はそのような例ではありません。ともかく、「動詞+です」はサザエさんのタラちゃんだけでなく、書き言葉でも、けっこう普通に用いられているわけです。その条件を分析するといろいろおもしろいことがわかってきますが、きょうはここまでとします。

次は可能を表す「読める」「行ける」などの形。可能動詞に可能の助動詞がついたものとみて、私は二重可能形と呼んでいます。最



Figure 1 consists of two bar charts. The left chart shows the percentage of the population aged 65 and over in 1990 for 'korareru' (blue) and 'koreru' (maroon) groups across different time periods: -1930, 1931-40, 1941-50, 1951-60, 1961-70, 1971-80, and 1981-84. The right chart shows the same data for the periods: -1939, 1940-49, 1950-59, 1960-69, and 1970-. A red arrow in each chart points to the period 1971-80 (left) and 1940-49 (right), indicating the time of the survey. The y-axis for both charts is labeled '%' and ranges from 0 to 100. The legend for the left chart is 'korareru' (blue) and 'koreru' (maroon). The legend for the right chart is '/korareru/' (blue) and '/koreru/' (maroon).

| Period  | korareru (%) | koreru (%) |
|---------|--------------|------------|
| -1930   | 68           | 18         |
| 1931-40 | 58           | 30         |
| 1941-50 | 58           | 30         |
| 1951-60 | 52           | 35         |
| 1961-70 | 50           | 36         |
| 1971-80 | 44           | 47         |
| 1981-84 | 27           | 63         |

| Period  | /korareru/ (%) | /koreru/ (%) |
|---------|----------------|--------------|
| -1939   | 78             | 22           |
| 1940-49 | 34             | 66           |
| 1950-59 | 39             | 61           |
| 1960-69 | 22             | 79           |
| 1970-   | 18             | 83           |

『日本語話し言葉コーパス』における行動

| 表現              | BCCWJ(1億語) | NWJC(200億語)     |
|-----------------|------------|-----------------|
| 動詞＋デス           | 82         | 7,172           |
| 行ケレル、行ケレナイ、行ケレタ | 6          | 62              |
| ～シソウニナイ／～シナサソウ  | 629 / 75   | 17,077 / 10,943 |
| ～スベキデナイ／～シナイベキ  | 245 / 11   | 3,018 / 205     |

| サンプル ID    | 前文脈   | キー    | 後文脈   | 活用形       | レジスター               | 執筆者          | 書名・出典                 | 出版者    | 出版年  |
|------------|---|-------|---|-----------|---------------------|--------------|-----------------------|--------|------|
| O82X_00159 | あんなにのっちゃんとおりです。#そのことについて私にも私にも知らされてるでし                | あるです  | い #新登場はそれ(か)反省はしてあります。い #それを解決するわけじゃないです                  | 終止形<br>一般 | 特定の目的・ベストセラー<br>(著) | 村上 春樹<br>(著) | 世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド | 新潮社    | 1985 |
| OY14_44167 | この気がかりないうってイーンがやまいです。#転じてたらさうとどうせうて言うとい               | 思うです  | い ~#転くまでも、読きていたらね(笑)Igre miz                              | 終止形<br>一般 | 特定の目的・ブログ           |              | Yahoo! ブログ            | Yahoo! | 2008 |
| OC14_03979 | ・監製 + 監音 + イミ + 監ト + 時研 + 計 + まご + ナイト + 生相 + 監音 + 監  | かけるです | #この場合はおかずは無く、B物(か)いらいます。おれずがあるなら、普通にお白米                   | 終止形<br>一般 | 特定の目的・知恵袋           |              | Yahoo! 知恵袋            | Yahoo! | 2005 |
| O82X_00159 | 知の広域を前にするとそれ以外の状況が中庸中になつてしまふきらい(か)                    | あるです  | #またそれならそれにこそ(科学)も階層(なさ)い進歩を進めていきたくわけだ。                    | 終止形<br>一般 | 特定の目的・ベストセラー        | 村上 春樹<br>(著) | 世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド | 新潮社    | 1985 |
| OY14_46352 | 二語目ですたにへい > 様へい < 用い ですわまたナール。(五)mm用入ります              | するです  | #新型 INOVAROS SII と CTS II の採用です！<br>ね！早速感懐した！SIRIO で録音！です | 終止形<br>一般 | 特定の目的・ブログ           |              | Yahoo! ブログ            | Yahoo! | 2008 |
| OY14_43223 | だといのに！トット。#まだまだ悪いですがあー#でも最近恋してるにかい                    | あるです  | #日付が長くなったよなあ〜#dairaの会社は十七日に三十が終業                          | 終止形<br>一般 | 特定の目的・ブログ           |              | Yahoo! ブログ            | Yahoo! | 2008 |
| OY15_01489 | い、違うの！！#無茶人#井はわかワロトリみ、身の危険                            | 恐るんです | #ここには後述です！#暗(高)画調、(楽)夫人を拍撃して破壊して                          | 終止形<br>一般 | 特定の目的・ブログ           |              | Yahoo! ブログ            | Yahoo! | 2008 |
| OC09_03684 | 。！「ネコリヤや寒暖の差に気を付けて下さいね。」#そして規則正しく、寝る                  | 食べるです | #私が！幸ひ、(楽)が欲しい。めいと生活習慣を見直したい事により                          | 終止形<br>一般 | 特定の目的・知恵袋           |              | Yahoo! 知恵袋            | Yahoo! | 2005 |
| PB24_00273 | に刑務所を持つと家内に射あてて、(人夫)にならなければ(解明)でき                     | 手伝うです | #い、そんな急がが取れたて。#(中略)(村)の者は誤心を知りたくなていよ                      | 終止形<br>一般 | 出版・書籍               | 御田 邦男<br>(著) | ホスピス通りの四季             | 新潮社    | 2002 |
| OY03_08881 | ものも解決しないのかい？ [Jouel] [Serial] Serial / カ・セラ・セイ #なようかい | なるです  | #これは(スペイン)語です。カタクトリ #英語でWhat? hwil [bel]                  | 終止形<br>一般 | 特定の目的・ブログ           |              | Yahoo! ブログ            | Yahoo! | 2008 |
| Lbb7_00014 | 調のバリエーションが決められ全部の調のバリエーションのために                        | なるです  | #こ、だって、われわれ日本人民間に11つの決まり方をいかにうまく分けて                       | 終止形<br>一般 | 図書籍・書籍              | 相原 末治<br>(著) | やさしい楽譜の読み方            | 音楽之友社  | 1987 |
| O82X_00153 | は権柄事項内で部外者にも誰にも知らんばいまずです！ #「私は」聞いて                    | あるです  | #詳細説明の上層部とはかなり大派たいイベントが連動しておりましてな                         | 終止形<br>一般 | 特定の目的・ベストセラー        | 村上 春樹<br>(著) | 世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド | 新潮社    | 1985 |

23 講演◆言語研究のインフラ整備～日本語コーパスからみえてきたもの～

近では音の特徴から「レ足す言葉」と呼ぶ人が多いようです。これは、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』には六例しかなく、また動詞も「行く」にかぎられています。これだと間違いかないという気もしますが、『国語研日本語ウェブコーパス』を調べると、多くの動詞に生じていることがわかります(図19)。二百五十億語という規模がものをいって、生起確率の低い現象が拾いあげられています。

次の「しそうにない」と

BCCWJ

| 動詞 | レル | レナイ | レタ |
|----|----|-----|----|
| 行ケ | 3  | 2   | 1  |
| 聞ケ | 0  | 0   | 0  |
| 書ケ | 0  | 0   | 0  |
| 遊ベ | 0  | 0   | 0  |
| 歩ケ | 0  | 0   | 0  |
| 出来 | 0  | 0   | 0  |
| 描ケ | 0  | 0   | 0  |
| 飛ベ | 0  | 0   | 0  |
| 聴ケ | 0  | 0   | 0  |
| 読メ | 0  | 0   | 0  |

NWJC

| 動詞 | レル | レナイ | レタ |
|----|----|-----|----|
| 行ケ | 32 | 28  | 2  |
| 聞ケ | 5  | 1   | 2  |
| 書ケ | 4  | 1   | 0  |
| 遊ベ | 4  | 0   | 0  |
| 歩ケ | 3  | 0   | 0  |
| 出来 | 2  | 0   | 0  |
| 描ケ | 2  | 2   | 1  |
| 飛ベ | 1  | 0   | 1  |
| 聴ケ | 1  | 1   | 0  |
| 読メ | 1  | 1   | 0  |

図19 「二重可能」(レ足す言葉)

|    |  |   |   |
|----|--|---|---|
| 15 | 名詞 動詞 助動詞 助動詞<br>[柚葉] [カナでも]   | 動詞<br>[くっつか]                                      | 形容詞 形容詞 助動詞 助動詞 名詞<br>[なさそう との] [こと]  |
| 16 | 名詞 形容詞 補助記号 感動詞 補助記号 名詞 助動詞<br>[遠慮なく] [「ああ、」] [大久保で]<br>動詞 助動詞 名詞 動詞 助動詞 助動詞 助動詞<br>[やったら] [カウンター] [食った ので]  | 名詞 動詞<br>[反抗し]                                    | 形容詞 形容詞 助動詞 助動詞 名詞 助動詞 名詞 動詞 助動詞<br>[なさそう な] [とこで] [溜飲下げるの<br>助動詞 補助記号 助動詞<br>ね] と]   |
| 17 | 名詞 名詞 助動詞 動詞 名詞 助動詞<br>[躊躇半端に] [踊る] [自分を]  | 動詞<br>[許さ]  | 形容詞 形容詞 助動詞 助動詞 助動詞 補助記号 副詞 代名詞<br>[なさそう な ので、] [多分] [それ]<br>形容詞 名詞 助動詞 動詞 助動詞<br>[正しい] [気が] [します]  |
| 18 | 名詞 助動詞 [趙雲の] 名詞 助動詞 [子供って] 動詞 助動詞 助動詞 助動詞 助動詞<br>[出てこないか]<br>助動詞 助動詞 動詞 助動詞 補助記号 名詞 接尾辞 助動詞<br>[なあと] [思うけど、] [三國志に]<br>形容詞 名詞 名詞 副詞 名詞 動詞 助動詞<br>[詳しい] [家人曰く] [あまり] [活躍して]<br>助動詞 助動詞 助動詞 助動詞 名詞 助動詞 助動詞 助動詞<br>[なかつた との] [ことなの で] | 名詞 動詞<br>[期待でき]                                   | 形容詞 形容詞 助動詞<br>[なさそう です]  |
| 19 | 名詞 助動詞<br>[贅沢は]  | 動詞 形容詞 形容詞 助動詞<br>[好まなさそう た]<br>助動詞 補助記号<br>[けど、] | 代名詞 助動詞 動詞 名詞 助動詞 形容詞 助動詞<br>[そこに] [ある] [材料で] [簡単に]<br>形容詞 名詞 助動詞 動詞 助動詞 助動詞 形容詞<br>[美味しい] [ものを] [作れるのは] [凄い]<br>助動詞 と] 助動詞 助動詞<br>[思ってる] |
| 20 | 名詞 助動詞<br>[誓は]   | 動詞 形容詞 形容詞 助動詞<br>[つまらなさそう に]                     | 名詞 助動詞 動詞 助動詞<br>[溜息を] [ついた]  |
| 21 | 名詞 助動詞 補助記号 補助記号<br>[数 は、]<br>動詞 助動詞 動詞<br>[入れてもらえ]  | 形容詞 形容詞 助動詞 助動詞 補助記号 補助記号 補助記号<br>[なさそう だし、]      |   |
| 22 | 名詞 名詞 助動詞 副詞 形容詞 助動詞<br>[薔薇乙女は] [正直] [怖くて]   | 動詞<br>[読め]  | 形容詞 形容詞 助動詞 助動詞 補助記号 名詞 接尾辞 助動詞<br>[なさそう だが] [く 薔薇的に<br>補助記号<br>]   |

図20 「しなそう」

六二九に對し、「ししてしなさそう」が七五で、「しなさそう」が少なくともないので、ウェブコーパスで調べると、一七、〇〇〇に對して一一、〇〇〇くらいと、頻度差がほとんどなくなっています。もはや誤りだと切つて捨てることができないう状態です。ウェブコーパスでは、「くつつかなさそう」「反抗しなさそう」「許さなさそう」など、動詞もいろいろなのができます(図20)。

「しすべきでない」と「ししないべき」では、前者が正しいといわれています。誤りとされている「ししないべき」は、『国語研日本語ウェブコーパス』でもさほど多くは觀察されませんが、分布パターンがちよっとおもしろい(図21)。「萌えるべきなのか、萌えないべきなのか」「消すべきか、消さないべきか」「分けるべきだ分けないべきだと論争する」のような文脈、(ハムレット文脈と私は呼んでいます)が非常に多く、この文脈で変化が先行していることがわかります。

最後に、コーパスはただ大きければよいのではないという例を示しましょう。例としていわゆる自動詞の「泣く」と「死ぬ」が目的語を伴って他動詞のように用いられている例を検索します。「しを泣く」「しを死ぬ」の頻度は非常に低いものの、絶無ではありません。『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を調べると、「しを泣く」が一例、「しを死ぬ」が四例見つかります。

さて、それでは『国語研日本語ウェブコーパス』を調べたらもっとたくさん見つかるかというと、実はまったく見つかりません。これはなぜでしょうか。

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に見つかった「しを死ぬ」

|    |   |   |   |
|----|---|---|---|
| 3  | 「 <small>名詞 助詞</small> 嗚呼、」 「 <small>動詞 助動詞 助詞 補助記号</small> 萌えるべきなのか、」  | 「 <small>動詞 助動詞 助動詞 助詞</small> 萌えないべきなのか」   |   |
| 4  | 「 <small>名詞 助詞</small> 話 は」 「 <small>動詞 助動詞 助詞 補助記号</small> 変わりますか、」 「 <small>記号 補助記号</small> Q :   | 「 <small>動詞 助動詞 助動詞 助詞</small> 消さないべきか」   |   |
| 5  | 「 <small>名詞 助詞</small> 会社 の」 「 <small>名詞 助詞</small> トイレ の」 「 <small>名詞 補助記号</small> 電気、」 「 <small>名詞 助詞</small> 必要 の」 「 <small>形容詞</small> ない」 「 <small>名詞 助詞</small> どこ に」 「 <small>動詞 助動詞 助詞 補助記号</small> 消すべきか、」   | 「 <small>動詞 助動詞 助動詞 助詞</small> 入れないべきか」   | 「 <small>動詞 助動詞 助詞 助動詞 助詞 助詞 記号</small> 迷ってるんだよなaw」   |
| 6  |   | 「 <small>動詞 助動詞 助動詞 助動詞 助詞</small> 話さないべきなの」 「 <small>動詞 助動詞 助動詞 助動詞</small> かなんです」   |   |
| 7  | 「 <small>動詞 助詞 助動詞</small> 話している」 「 <small>名詞 助詞</small> 側の」 「 <small>名詞 助動詞</small> 勝手な」 「 <small>名詞</small> 見解」 「 <small>動詞 補助記号</small> より、」 「 <small>動詞 助動詞 助動詞</small> 分けるべきだ」   | 「 <small>動詞 助動詞 助動詞 助動詞 助詞</small> 分けないべきだ」と  | 「 <small>名詞 動詞 助詞 助動詞</small> 論争するのは」 「 <small>動詞 助詞 助動詞 助動詞</small> ばかけていると」 「 <small>動詞</small> 思う」                         |
| 8  | 「 <small>形容詞 助動詞</small> 余計な」 「 <small>名詞 助詞</small> 口出しを」  | 「 <small>動詞 助動詞 助動詞 助動詞</small> ししないべきか」  |   |
| 9  | 「 <small>名詞 名詞 名詞 助詞</small> 予防接種以外の」 「 <small>名詞 助詞</small> ことに」 「 <small>動詞 助動詞 助動詞</small> ついても」 「 <small>補助記号</small> お医者様の」 「 <small>名詞 助詞 補助記号</small> 立場から、」 「 <small>副詞</small> かなり」 「 <small>動詞 助動詞</small> 突っ込んだ」 「 <small>名詞 助詞</small> 意見や」 「 <small>名詞 名詞 助詞 助詞</small> 具体例なども」 「 <small>動詞 助動詞 助動詞 助動詞 補助記号</small> 記されている、」 「 <small>補助記号 動詞 助動詞 助動詞</small> 受けるべきか」 | 「 <small>動詞 助動詞 助動詞 助動詞 助詞</small> 受けないべきか」 「 <small>補助記号 助動詞</small> を」  | 「 <small>名詞 動詞 助詞 助動詞</small> 検討するには」 「 <small>副詞</small> とても」 「 <small>名詞 助詞</small> 参考に」 「 <small>動詞 助動詞 助動詞</small> できました」 |
| 10 | 「 <small>名詞 接尾辞 助詞</small> 予備校に」 「 <small>動詞 助動詞 助動詞</small> 行くべきか」   | 「 <small>動詞 助動詞 助動詞 助動詞 助詞</small> 行かないべきか」 「 <small>補助記号</small> ...」  |   |
| 11 | 「 <small>名詞 接尾辞 助詞</small> 予備校に」 「 <small>動詞 助動詞 助動詞</small> 行くべきか」   | 「 <small>動詞 助動詞 助動詞 助動詞 助詞</small> 行かないべきか」 「 <small>補助記号 名詞 名詞 助動詞</small> ... - BIGLOBE な」 「 <small>動詞 助動詞 助動詞</small> んでも」 | 「 <small>名詞 接尾辞</small> 相談室」  |

図21 「～シナイベキ」

はすべて「彼は自分の死を死んだ経験者だった」のような「死を死ぬ」の例であり、書き手は文学者・評論家（有島武郎、田村隆一、五島勉、南伸坊）にかざられています。『現代日本語書き言葉均衡コーパス』では、韻文を含めて多くの文芸書がサンプリングの対象になっていますが、どうもウェブには日本語の文学作品はあまり載っていないようです。規模は大きくなくても、綿密に設計して構築した均衡コーパスには固有の価値があることを示す例といえるでしょう。

## まとめにかえて

最後に、言語資源を整備すると、今後の言語研究にどのような影響が及ぶかという問題を少し考えてみたいと思います。今日の話の後半で紹介した例でおわかりいただけたと思いますが、内省やアンケートに頼らず言語内多様性を把握しようとしてもうまくいかない例がたくさんあります。コーパスを利用することで、言語内多様性を実際の言語行動のデータに基づいて研究する可能性ができました。これが重要だと私は考えています。さきほどの、「しなさそう」のように、量的にみるとはや逆転が生じそうな現象の場合、それでも「しきそうにない」が正しくて「しなさそう」は誤りだと主張するためには、その根拠をきちんと示すことが要請されます。単なる直観では説明になりません。

従来の言語研究は、ややもすると規範的で正しいと思われるもののだけを対象として進められる傾向がありました。コーパスの存在を前提とした今後の研究では、正しくないとされているものでも、実際

に用いられているものは、すべて対象とした研究が行われるようになるだろうと思います。

要するに、複雑多様な言語現象を過度に単純化せず、複雑なものは、複雑なままに理解しようとする姿勢が求められています。そのためには、従来の言語研究法にくわえて、情報科学や統計科学との連携が不可欠になってくるでしょう。昨今、文理融合という言葉が頻繁に耳にするようになってきましたが、コーパスを用いた言語研究はその好例を提供できるのではないのでしょうか。

これで私の発表をおしまいします。



# 「ソトから見た日本語の特質と普遍性」 日本語の音声（促音（っ）の謎）

理論・構造研究系教授 窪蘭 晴夫

## はじめに

ちよつと変わった名字で恐縮ですが、窪蘭<sup>くぼの</sup>と申します。草冠の「蘭」が付く名字は典型的な鹿児島県の名前ですが、窪蘭というのは鹿児島でも比較的珍しく、日本全国で二五〇人くらいしかいないそうです。その意味では、消滅の危機に瀕した名字だと思います。とは言っても、日本全国では約一二万の名字があり、その中では真ん中あたりに位置するそうですので、私より珍しい名字の方は多くいらっしゃると思います。

私が所属する理論・構造研究系は、日本語を外から眺めることで、他の言語との対照をもとに日本語の構造、特質を考える研究系です。本日の話は、その中で促音「っ」にテーマを絞ってお話したいと思っています。

皆さんの中にも日本語教育に関係している方々がたくさんいらっしゃると思いますが、日本語学習者が促音「っ」をうまく発音できないことは日常的にご存じだと思います。私も海外に行くとよく経験します。この前も台湾に行った際、五十肩を治すためにマッサージ店に行きました。マッサージが終わって帰る際に「ちよつと待て！」と大声

で呼びかけられてドキッしました。何かと見てみると、店の奥からお茶とお菓子を持ってきました。お茶を飲んで帰れということだったのでしょ。その人の意図としては、「ちよつと待つて」と言いたかったのだと思いますが、私としては非常にきつい口調で命令された気がしました。これだけではありません。「ちよつと来て」と「ちよつと切つて」では意味が違ってしまいます。このように「っ」があるかないかで、意味やニュアンスが変わってしまうという特徴が日本語にはあります。日本語教育でも促音は習得がむずかしい音声特徴の一つとされており、「っ」がしっかりできる日本語学習者は日本語がよくできる上級の方です。



窪蘭 晴夫（くぼの はるお）

理論・構造研究系教授。Ph.D.（言語学）（エジンバラ大学）。鹿児島県川内市（現薩摩川内市）生まれ、母語は鹿児島方言。大学院（名古屋大学）までは英語音韻史を専攻していましたが、イギリス留学中に母語に対する無知を悟り、日本語の音声研究を始めました。研究対象は英語から日本語へ、標準語から鹿児島方言へと、経歴とは逆方向に推移しています。主な著書にThe Organization of Japanese Prosody (1993)、『語形成と音韻構造』(1995)、『アクセントの法則』(2006)、『数字とことばの不思議な話』(2011年、岩波書店)など。



世界の言語を見ると、促音（言語学では「重子音」と言います）のある言語は少なくありません。アジアではトルコ語、ペルシャ語、ベンガル語、インドのヒンディ語、マラヤラム語、タイで話されているマレー語などがあり、アフリカに行くと、カイロのアラビア語やベルベル語、ヨーロッパでもギリシャ語、ハンガリー語がこの特徴を持っています（図1）。このように促音を持っている言語は少なくはないのですが、残念ながら、これらは世界の主要な言語ではありません。国連の公用語六つの中で促音を持っているのはアラビア語だけです。政治力は言葉の世界でも幅をきかせているようで、政治力のない言語はなかなか研究されません。その中で、私もは、促音のある言語の中心になって日本語の研究を進めているわけです。

## 外来語促音の謎

きょうは促音の中でも「外来語の促音」を取り上げます。外来語における促音の出方はまるで神出鬼没です。たとえば、「cap（キャップ）」には促音が入り、「cab（キャブ）」には入りません。「pick（ピック）」には入りますが、「peak（ピーク）」だと入りません（図2）。

このことを英語話者に話すと、なぜだと逆に聞かれます。英語母語話者としては「pick」と「peak」は母音が違うだけで、「k」自体に変わりはないのに、なぜ日本人は「pick」に促音を感じて「peak」に感じないのかと、逆に問い返されるのです。

### ■ 日本語学習者の発音

「ちょっと待て」-「ちょっと待って」

「ちょっと来て」-「ちょっと切って」

### ■ 促音（重子音 geminate consonant）

Persian, Bengali, Hindi, Malayalam, Pattani Malay, Japanese, Turkish; Arabic, Berber; Cypriot Greek, Hungarian, Italian, Swiss German, Estonian, Finnish, Saami, ... (Kubozono, H. (ed.) *The Phonetics and Phonology of Geminate Consonants*, Oxford UP. 2016)

図1 はじめに

1. **cap** キャ**ッ**プ—cab キャブ, **lock**—log, **rack**—lag
2. **pick**—peak, **mitt**—meat, **mid**—mead
3. **tot**—toss, **tup**—tough, **tap**—taff
4. kiss—**cash**, cough—**Gogh**, puff—**Bach**
5. **max**—mask, **tax**—task, **lax**—rask
6. **cap**—captain, **fax**—facsimile, **sax**—saxophone
7. **happy**—happiness
8. less—**lesson**, **lis**—**listen**—listener, listening
9. tough—**stuff**, **staff**, log—**flog**, tub/tab—**stab**
10. **kitchen**—chicken

図2 外来語促音の謎

同じように、「kiss（キス）」の「s」のところに促音は入りませんが、「cash（キャッシュ）」「smash（スマッシュ）」の「sh」には促音が入ります。日本人はそこに促音を感じます。「max（マックス）」だと促音が入りますが、「クス」がひっくり返って「mask（マスク）」となると、日本人には促音が聞こえなくなります。また、「cap（キャップ）」には入り、「captain（キャプテン）」には入りません。もっと不思議なことに、「fax（ファックス）」には入ります。「ファクス」と「ッ」を入れない新聞社もありますが、普通は入るようです。ところが、その元となった「facsimile（ファクシミリ）」という語には促音は入りません。同様

に、「sax(サククス)」には入りますが、その元となった「saxophone(サキソフォン)」は入りません。さらに「happy(ハッピー)」には入り、「happiness(ハピネス)」には入りません。不思議な現象です。

単語が長くなったら入らないのかと思いきや、そうでもありません。「less(レス)」には入らないのに、「lesson(レッスン)」には入り、「tough(タフ)」には入らず、そこに「s」をつけただけの「stuff, staff(スタッフ)」は促音が聞こえます。

つい最近も留学生に聞かれました。「kitchen(キッチン)」には促音が入るのに「chicken(チキン)」に入らないのはなぜか、「キ」と「チ」が入れ替わっただけなのにと。

### 促音に関する二つの疑問

#### 図3 疑問

- 促音がどのような条件のもとで出現するか？
  - ・ kitchen (キ<sup>ッ</sup>チン) – chicken (チキン)
  - ・ bridge (ブリ<sup>ッ</sup>ジ) – Bridgestone (ブリヂストーン)
- その条件を作り出している要因は何か？
  - (1) 偶然？
  - (2) 文字(綴り字)の影響？
  - (3) 原語(英語)に違いあり？
  - (4) 日本語の構造に原因？(知覚のメカニズム、音韻構造)

以上のような例が出てきたとき、私たち言葉を研究する者としては、二つの大きな疑問を抱きます。一つは、促音がどのような条件のもとに出現するかという問題です。たとえば、「kitchen(キッチン)」と「chicken(チキン)」の違いはたまたまこの二語(だけ)に出てきたものなのか、あるいは似たような例がもっとたくさんある

のでしょうか。「bridge(ブリッジ)」には促音がありますが、自分の名前を元にブリヂストンを創設した石橋さんは、会社名をつくったとき促音を入れていません。このような例が一般的なのでしょうか。これが一つ目の疑問です。次に、もし一般的だとすると、その条件を作り出している要因は何なのでしょう。これが二つ目の疑問になります。

二つ目の疑問を考えてみます(図3)。なぜ特定の位置に促音が入るのか、この疑問に対する一つの答えは、「偶然そうなのだ」という可能性です。その可能性はゼロではありませんが、これを言い出すと学問はそこでストップしてしまいますので、初めからそうだと決めつけることはできません。何か理由があるのではないかと思うところから研究は始まります。そこで一つ考えられるのは、文字(綴り字)の影響です。たとえば、「kitchen(キッチン)」には「t」があり、これが促音の原因だという可能性があります。

そのことを解き明かすため、無意味語を作り—たとえば「kitchen」のkをmにして「michen」に、また「chicken(チキン)」を「micken」にして—英語話者に発音してもらい、その音声日本人に聞かせる。このようにして、文字情報がない条件下で促音を聞き分けることができるかどうかを調べる方法があります。

そのように調べてみて文字の影響ではないということになれば、さらに二つの可能性が考えられます。一つは、原語の影響です。日本の外来語の八五％は英語から入っていますので、原語として主に英語の発音に要因があるのではないかと考えられます。もう一つは、日本語の側の問題、つまり日本人の耳(知覚のメカニズム)や音韻構造に要因があるのではないかという仮説です。



## 本日のテーマ「位置効果」

そこで、今日考えてみたいのが促音の「位置効果」です(図4)。これは、日本人は語末付近に促音を感じやすいという傾向で、英語から入った外来語では広範囲に見られます。たとえば、「ジ」が語末に出てくる「bridge (ブリッジ)」では促音が入りますが、「ジ(ヂ)」が語中に出てくる「Bridgestone (ブリヂストン)」には入りません。ブリヂストンの創設者・石橋さんが橋と石をひっくり返さなかったら、「ストンブリッヂ」という社名になっていたと思われる。実際に「ストンブリッジ」という名前の会社はあり、その社名には促音が入ります。

促音はまた、「sax (サククス)」には入りませんが、「saxophone (サキソフォン)」には入りません。「mix (ミックス)」に入り、「mixer (ミキサー)」には入りません。極めつきは、「picnic (ピクニック)」です。同じ「c」が二つあり、その前に同じ母音の「i」がありますが、後ろの「c」にだけ促音が入ります。英語の二音節語ではアクセントはほとんど語頭にありますが、最初の「pic」が強く長いはずですが、日本人はどうも語頭付近には促音を聞かないようで、「picnic (ピクニック)」のような例が多数出てきます。

例が多数あるということは特定の語だけの特徴ではないということの意味します。そこで問題になるのが先に述べた二つ目の問題、つまりなぜそのような規則性が出てくるのかという問題です。偶然でない

- 促音は語末付近に生じやすい(位置効果)  
(例) bridge (ブリッジ) — Bridgestone (ブリヂストン)  
sax (サックス) — saxophone (サキソフォン)  
mix (ミックス) — mixer (ミキサー)  
fax (ファックス) — facsimile (ファクシミリ)  
picnic (ピクニック、\*ピクニック、\*ピックニック)  
sex — sexy, box — boxer, dock — doctor, cap — captain  
cf. Kubozono, et al. (2013) 'On the positional asymmetry of consonant gemination in Japanese loanwords,' *JEAL* 22 (4): 339-371.

図4 今日のテーマ

- イタリア語からの借用語(田中 2007)
- capello /kapello/ ⇔ cappello /kappello/ (髪の毛) (帽子)
- 広辞苑等の辞書に掲載された1,003語  
Rossini /rossi:ni/ → ロッシーニ  
espresso /espresso/ → エスプレッソ  
tortelli /tortelli/ → トルテリ
- 促音化率: 単子音 (0%) vs. 重子音 (60%)
- 分節素条件: 無声阻害音 (82%) > 有声阻害音 (57%) > 共鳴音 (10%)

図5 日本語原因説

としたら、原語である英語に原因があるのか、それとも外来語として取り入れる側の日本語(日本人)に原因があるのかが問題になります。

## 先行研究——日本語原因説

先行研究を見ると、日本語に原因があることを疑わせる証拠はいくつかあります(図5)。一つはイタリア語からの借用語です。日本語にはイタリア語がたくさん入っています。イタリア語は、日本語と同じように、重子音(促音)の有無で単語の意味が違います。そこで、

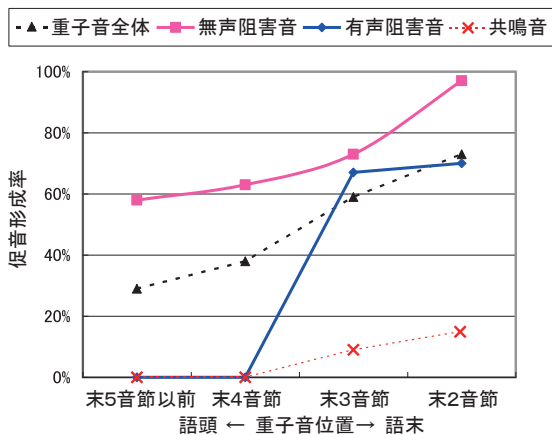
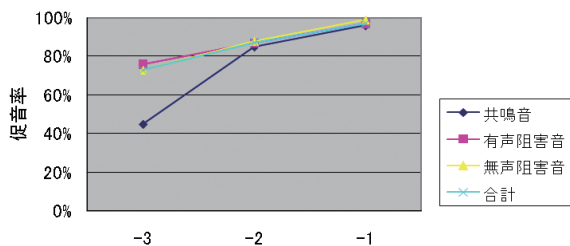


図6 イタリア語外来語の位置効果

- ・知覚実験(田中・窪蘭 2008)
- ・イタリア語 108 語(単子音 54 例、二重子音 67 例)
  - ・それぞれに対する促音知覚の分析
  - ・被験者は日本語話者 60 名
- ・結果(促音知覚率)
  - ・単子音 << 二重子音
  - ・無声阻害音 >> 有声阻害音 >> 共鳴音
  - ・語中 << 語末

図7 イタリア語外来語の位置効果(続)



二重子音(onset)を含む音節位置(語末基準)

図8 イタリア語外来語の位置効果(続)

重子音が六七例)をイタリア人に発音してもらい、その音声を刺激音として日本語話者六〇名に聞かせて促音の知覚を確かめるという実験です。そうすると、前述の実験とまったく同じ結果が得られました(図8)。特に、イタリア語で語末付近にあった重子音が、日本人の耳には促音になって聞こえ、語末から離れた重子音だと促音に聞かれる率が低下してしまいます。イタリア語から入った外来語

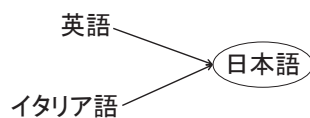
『広辞苑』に掲載されたイタリア語から日本語に入った単語一、〇〇三語について検討した研究があります。たとえば、「Rossini(ロッシーニ)」「espresso(エスプレッソ)」といった単語の促音が、どのように日本語に入っているかを調べた研究です。

普通、イタリア語で重子音がないものは、日本語でも促音がなく、イタリア語で重子音がある単語は日本語でも促音が入ると思われませんが、その対応は一〇〇%ではありません。なぜ一〇〇%にならないかというと、一つには、子音のタイプによって、日本語に入る際に促音になりにくい音があるためです。英語から入った語でも「キャップ」と「キャブ」のように、「p」と「b」では促音の出やすさがまったく違い

ます。イタリア語から入った外来語でも、子音のタイプによって日本人が促音を知覚するかしないかという違いが出てきます。

もう一つ、元のイタリア語の単語が重子音を語末に持っていたか、語末から離れた位置に持っていたかで、その単語が日本語に入ったとき、促音が入りやすいかが決まってきます。イタリア語で語末にあったものは、日本語では明らかに促音になりますが、語末から離れてしまうと促音にはなりにくいということがわかっています(図6)。

この研究をさらに進め、辞書に載っている外来語ではなく、耳で聞いたかどうかを調べた研究もあります(図7)。これは、日本人がほとんど知らないイタリア語の単語一〇八語(うち単子音が五四例、重子音が六七例)をイタリア人に発音してもらい、その音声



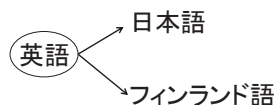
→ 日本語に原因あり

図9 まとめ

■ 傍証

- ・ Christ—Christmas, holy—holiday  
cf. cap—captain
- ・ フィンランド語に入った英語
  - ・ cap→kap.pi, bug→ba.gi
  - ・ bush→bus.si, bus→bas.si
  - peak→piik.ki, park→paak.ki
  - ・ captain→kap.tai.ni,
  - picnic→pik.nik.ki

図10 英語原因説



→ 英語に原因あり

図11 まとめ

知覚実験

■ 刺激音

- ・ 1音節語：nip, nit, nik
- ・ 2音節語：
  - (a) nipnip, nitnit, niknik (無加工)
  - (b) nipnip, nitnit, niknik (加工)
  - (c) nipnip, nitnit, niknik (加工)
- 被験者：日本語母語話者42人

図12 Kubozono et al. (2013)

も、英語から入った外来語と同じパターンを示すわけです。このことは、促音知覚の原因が日本語（日本人）にあることを示唆しています（図9）。食べ物にたどって言えば、英語圏から日本に入った食べ物と、イタリア語圏から輸入された食べ物に共通の問題（特徴）があったとすると、受け入れた日本（語）側に原因があると推測できます。それと同じ推論が成り立つのです。

## 英語原因説

その一方で、外来語の元になっている英語の側に原因があることを窺わせる傍証もあります（図10）。たとえば、「Christ（クライスト）」と「Christmas（クリスマス）」では、明らかに語末から離れると母音や子音が短くなります。「holy（ホーリー）」の母音が「holiday（ホリ

デー）」では短くなるのです。ここから想像すると、「cap（キャップ）」と「captain（キャプテン）」の場合にも、capは文字で書いても発音記号で書いても一緒ですが、両者の間に何か音の違いがあってもおかしくありません。

もっと重要なのが、英語からフィンランド語に入った外来語です。フィンランド語も日本語と同じように促音にあたるものを持っています。また、英語からの借用語もたくさんあり、それらを見ると、たとえば「cap（カップ）」が「kap.pi（カッピ）」となるように、日本語の促音にあたるものがしばしば入ります。ところが、日本語のキャプテンにあたる「kap.tai.ni（カプタイニ）」には入っていません。日本語とまったく一緒です。ピクニックにあたる「pik.nik.ki（ピクニッキ）」も日本語と同じで、語末の方には促音が入りますが、語頭の方には入りません。このように、英語から日本語に入った語と、英語からフィン

ランド語に入った語に同じ特徴が見られるということから、英語そのものに促音有無の原因があることが窺えます(図11)。

## 知覚実験

このように、状況証拠としては日本語原因説と英語原因説の両方の可能性がありますが、それをもう少し客観的に調べたのが私どもの研究です(図12)。この研究では日本語母語話者四二名を対象にした知覚実験を通じて促音知覚のメカニズムを考察しました。具体的には、まず英語話者に意味のない一音節の単語 *nip*、*nit*、*nik* などと、二音節語

| 刺激音           | 促音知覚率 |
|---------------|-------|
| <b>nip</b>    | 86%   |
| <b>nipnip</b> | 38%   |
| <b>nipnip</b> | 83%   |
| <b>nipnip</b> | 27%   |
| <b>nipnip</b> | 64%   |

(= 外来語)

⇒ 単に位置の問題ではない。  
英語の音声に主な原因がある。

図13 促音知覚率

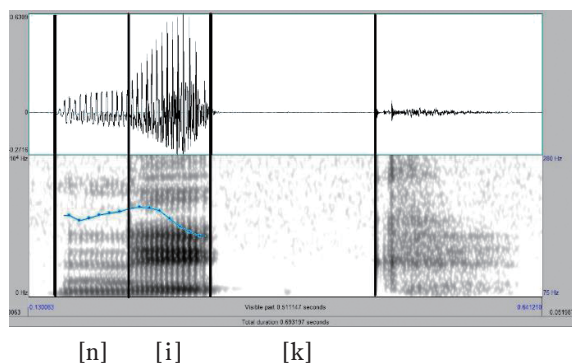


図14 アメリカ人女性の[nik]

*nipnip*、*nitnit*、*niknik* を発音してもらいます(英語では最初の音節にアクセントが置かれます)。これらの音声に加え、二音節語を加工したものも作りました。図12のように「*nipnip*」の後半(二音節目)を消して一音節語にすると、語頭の「*nip*」は見かけ上、語末に来るわけ、それを日本人がどう聞くかによって「位置効果」が本当に位置によるものであるかどうかを確認できます。同時に「*nipnip*」の最初の音節を消して一音節にしたときに日本人がどう聞くかも調べてみました。結果を図13に示します。

まず、元々の *nip* という語の場合、促音知覚率は八六%です。一方、二音節語の *nipnip* では、前の方の *nip* には促音はまったく知覚しませんが、後ろの *nip* には、一音節語と同じように促音が聞こえるという結果が得られました。まさに外来語と同じ結果です。このことから、外来語の促音パターンは文字に影響されているのではなく、基本的に日本人が耳でそれを聞き分けていることがわかります。

さらに、*nipnip* の後半の *nip* を消し、最初の *nip* を語末に置いた音声(日本語話者に聞かせると、語末にあるにもかかわらず知覚率は格段に落ちて二七%になります。一方、前の音節を消しても促音知覚率は六四%とそれほど落ちません。ということは、語末だから日本人が促音を知覚するというのではなく、英語の音声自体に主な原因があることがわかります。

次に英語側の原因が何かを探るために、音声波形を見ってみました。図14は「*nik*」という単語をアメリカ人女性が発音した波形で、母音[i]と[k]のあいだに見事な空間があります。これが、日本人が促音を知覚する「間」の時間帯で、この「間」が促音知覚を引き起こしてい

ると思われます。次に二音節語「niknik」では、最初の[k]と二つ目の[k]では、明らかに二つ目の[k]の方が「間」が長くなっています(図15)。英語は前の方にストレスがあるために前の方が長いと思われがちですが、実際には後ろが長くなっています。

もう一つ注意しなければならないのが、音の高さ(ピッチ)です。一音節語では[k]のところではピッチがぐっと下がります(図14)。二音節語だと、図15のように、前の音節も後ろの音節も「」も下がっているように見えますが、日本人の耳にはこの部分はそれほど下がっているように聞こえず、後ろの方が大きく下がっているように聞こえます。

このように、促音の知覚に、時間的な長ささとピッチ下降が関係していることが窺えます(図16)。二音節語の場合、英語では語末音節の方が大きなピッチの下降を伴っているの、それに日本人が反応し、さらに、子音自体の長さ(閉鎖区間)でも語末音節が語中音節よりも長いいため、それにも日本人が反応していることが予想できます。

## ピッチの影響

これらの仮説をもう少し客観的に検証してみました。ピッチの影響についてはその仮説をサポートする証拠がいくつかあります(図17)。

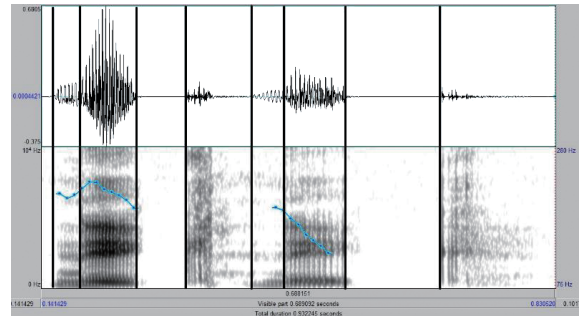


図15 アメリカ人女性の[niknik]

- ピッチ(音の高さ)：語末音節の方が大きなピッチの下降を伴う
- 長さ：[p, t, k]は語末音節が語中音節よりも(閉鎖区間が)長い

図16 仮説

- 背景(1)：母音の長短の知覚にピッチが影響  
長母音知覚率：下降調>平板調  
佐渡 vs. サード cf. Kinoshita et al. (2002)
- 背景(2)：下降調は平板調より物理的に短い  
(東京方言、鹿児島方言、北京官話)
- 背景(3)：日本語アクセントはピッチ下降が重要
- 予想：母音の長短と子音の長短の知覚方法が同じであれば、下降調の方が平板調より促音知覚率が高くなる

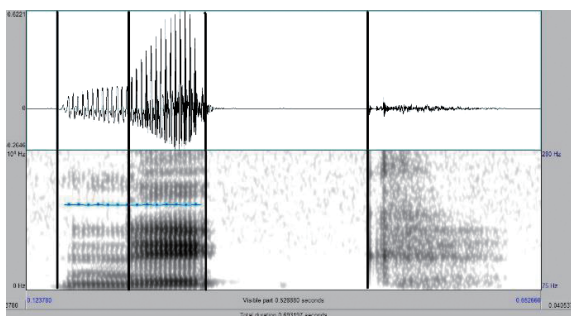
図17 ピッチの影響

たとえば、母音の長さが違う「佐渡」と「サード」のペアでは、普通「佐渡」の「さ」が高く発音され、ピッチは下降しませんが、その部分の長さを変えないまま、わざと「さ」の中でピッチを下げると、日本人はそこに長母音を知覚しやすくなるという報告があります。

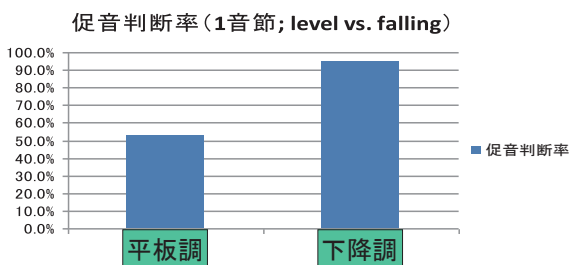
また、ピッチが下がる場合と下がない場合を機械で物理的に測定すると、東京方言でも鹿児島方言でも、ピッチが下がるタイプの語が下がない語よりも明らかに短くなります。中国語(北京官話)の声調でも同じ結果が報告されています。ということは、同じ長さの語や音であれば、下降調で発音される方が平板調で発音される場合より長く感じられる——促音が知覚されやすくなる——こととなります。



■ ピッチを平らにした刺激



[n] [i] [k]  
図18 仮説の検証(ピッチ)



⇒ 下降を伴うと促音知覚率が上がる。

図19 結果(ピッチの影響)

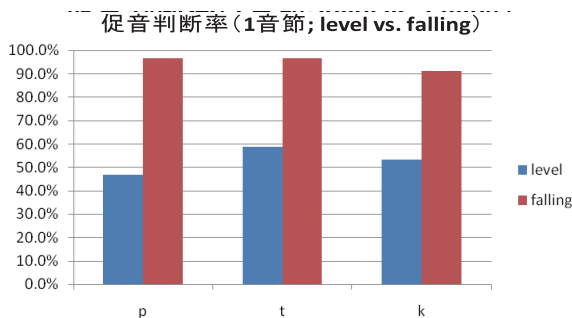
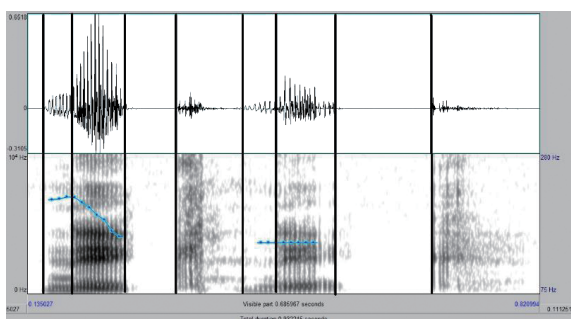


図20 結果(ピッチの影響)2



[n] [i] [k] [n] [i] [k]  
図21 ピッチを加工した[niknik]

さらに、日本語には「雨」とか「鈴」のようなアクセントの特徴があり、音が下がるかどうか、特に音がどこで下がるかで意味が決まります。いろいろな実験によって、日本語話者は音の下がり目に敏感であることが分かっていますから、ピッチが下がるかどうかによって子音の長さ、つまり促音の有無に影響があってもおかしくないわけです。

そこで、さきほどの「nik」(図14)を使って、ピッチが下がっている部分をわざと下げないで平らになるようにコンピュータで編集してみました(図18)。ここで、長さを変えていないことが重要なポイントです。長さを変えず、ピッチだけ変えて日本人に聞かせたところ、ピッチを下げた場合はほぼ一〇〇%促音が聞こえましたが、ピッチが平坦

な刺激を聞くと、五割ほどしか促音を知覚しないという結果になりました(図19)。これは、pの場合、tの場合、kの場合、すべて一緒です(図20)。つまり、ピッチが下がる場合は促音がほぼ一〇〇%聞こえますが、平坦なピッチにすると五割前後の促音知覚率になります。

二音節の単語についても同じようなことが言えます。ピッチのパターンを逆にして、二音節目ではなく一音節目のEに下降が生じるような音声を作って聞かせると(図21)、元のniknikの第一音節では三八%しか促音を知覚しなかったのに対し、編集した音声では同じ音節に六七%くらい促音を感じる、つまりほぼ倍の促音知覚率になることがわかりました(図22)。語末でなくてもピッチの下降が伴うと、日

| 刺激音                | 促音知覚率 |      |
|--------------------|-------|------|
|                    | 第1音節  | 第2音節 |
| <b>niknik</b> (原)  | 38%   | 83%  |
| <b>niknik</b> (加工) | 67%   | 70%  |

⇒ 非語末位置でも下降を伴うと促音知覚率が上がる

図22 知覚実験の結果

#### 音響実験

- a. [nɪpnɪp], [nɪtnɪt], [nɪknɪk]
- b. [sɪpsɪp], [sɪtsɪt], [sɪksɪk]
- c. [næpnæp], [nætnæt], [næknæk]
- d. [sæpsæp], [sætsæt], [sæksæk]

12語×14名の英語母語話者(英2+米12)  
×11回繰り返し

図23 仮説の検証(子音の長さ)

| Test word       | parameter                      | Mean  | SD   | F      | P       |
|-----------------|--------------------------------|-------|------|--------|---------|
| <b>[nɪtnɪt]</b> | C <sub>2</sub> closure         | 94.2  | 20.1 | 28.821 | < 0.001 |
|                 | C <sub>4</sub> closure         | 147.3 | 22.2 |        |         |
|                 | V <sub>1</sub> +C <sub>2</sub> | 223.0 | 13.4 | 32.245 | < 0.001 |
|                 | V <sub>2</sub> +C <sub>4</sub> | 271.4 | 21.0 |        |         |
| <b>[sɪpsɪp]</b> | C <sub>2</sub> closure         | 89.8  | 13.6 | 43.289 | < 0.001 |
|                 | C <sub>4</sub> closure         | 142.5 | 20.4 |        |         |
|                 | V <sub>1</sub> +C <sub>2</sub> | 187.7 | 13.7 | 214.98 | < 0.001 |
|                 | V <sub>2</sub> +C <sub>4</sub> | 254.8 | 11.4 |        |         |

図24 結果(アメリカ人)

| Test word       | parameter                      | Mean  | SD   | F       | P       |
|-----------------|--------------------------------|-------|------|---------|---------|
| <b>[nɪknɪk]</b> | C <sub>2</sub> closure         | 66.5  | 7.9  | 96.891  | < 0.001 |
|                 | C <sub>4</sub> closure         | 128.3 | 14.4 |         |         |
|                 | V <sub>1</sub> +C <sub>2</sub> | 145.7 | 8.3  | 185.797 | < 0.001 |
|                 | V <sub>2</sub> +C <sub>4</sub> | 222.7 | 13.7 |         |         |
| <b>[sæksæk]</b> | C <sub>2</sub> closure         | 105.4 | 11.3 | 9.243   | < 0.05  |
|                 | C <sub>4</sub> closure         | 117.3 | 9.1  |         |         |
|                 | V <sub>1</sub> +C <sub>2</sub> | 196.5 | 16.3 | 17.961  | < 0.01  |
|                 | V <sub>2</sub> +C <sub>4</sub> | 222.7 | 9.2  |         |         |

図25 結果(イギリス人)

## 子音の長さ

本語話者は、促音があると聞こえてくるわけです。

では、子音の長さはどうか(図23)。この実験では、一四名の英語母語話者(イギリス人二名、アメリカ人二名)に英語の二音節語(無意味語)を何回も繰り返し発音してもらいました。その発音を録音して子音の長さを測るという実験です。図24は、アメリカ人のデータです。nɪtnɪtという単語で、最初のtに比べて、語末のtはやはり非常に長く、閉鎖時間(間)が長くなっています。ここには明らかな

有意差があります。語末のtに前の母音の長さを加えて検定してみても、明らかに一音節目と二音節目では長さが違ってきます。単語を変えてsɪpsɪpにしても、語頭のpの無音の時間と語末のpの無音の時間には明らかな差があることがわかります。

イギリス人でもまったく同じ結果が得られました(図25)。アクセントは前の方に置かれています、それにもかかわらず明らかに語末のkの方が長く、語頭のkとの間に有意差があるという結果が出ています。

## まとめ

これらの結果をまとめると次のようになります(図26・27)。まず無意味語を使った知覚実験では、実際の外来語と同じ「位置効果」が観察されました。そこで、この効果がどこから出てきたのかを調べるために、二音節語(niknik)の後半を消して一音節語の刺激語として提示したところ、促音は知覚されにくくなることがわかりました。これにより、「位置効果」は見かけ上のもので、英語の音声の中に促音知覚を決める特徴が含まれていることがわかります。

次に、その原因として考えられる要因を二つ考えてみました。一つ

- 無意味語を使った知覚実験では、実際の外来語と同じ「位置効果」が観察される。

[nik] vs. [niknik]

- 2音節語(niknik)の後半を消して1音節語にすると促音は聞こえにくい。「位置効果」は見かけ上のもので、英語の音声の中に促音知覚を決める特徴が含まれている。

[nip] vs. [nipnip]

図26 まとめ(位置効果の要因)

- ピッチ(高さ)を下降調から平板調にすると促音知覚率は格段に下がる。

→ピッチの下降が促音知覚に影響する

- 英語の2音節では、第1音節より第2音節の方が、子音(閉鎖区間)の長さが優位に長い。

→子音の長さも促音知覚を左右する

図27 まとめ(続)

1. cap キャツプ—cab キャブ, lock—log, rack—lag
2. pick—peak, mitt—meat, mid—mead
3. tot—toss, tup—tough, tap—taff
4. kiss—cash, cough—Gogh, puff—Bach
5. max—mask, tax—task, lax—rask
6. cap—captain, fax—facsimile, sax—saxophone
7. happy—happiness
8. less—lesson, lis—listen—listener, listening
9. tough—stuff, staff, log—flog, tub/tab—stab
10. kitchen—chicken

→なぜか? 日本語の構造か? 英語に原因ありか?

図28 今後の課題: 他の条件

は音の高さ(ピッチ)です。日本人は、音のピッチが下がることに非常に敏感に反応しますが、英語の単語ではその下がり目が語末にあることを確認しました。これに加え、そもそもniknik、picnicといった二音節語では、一音節目と二音節目で子音の閉鎖区間の長さが有意に違います。このような子音の長さも日本人の促音知覚に影響を及ぼしていることがわかりました。

ただ促音の問題は非常に複雑で、外来語の促音だけとってみてもいろいろな謎があります(図28)。今日お話ししたのはその中の一つですが、その一つの謎を解くのに二年ほどかかりました。このほかにも、私の定年までに解決できないくらいの数の謎があります。たとえば、

前述の「kitchen（キッチン）」と「chicken（チキン）」にどうして違いが出てくるのか。このような謎を一つずつ解き明かしていく必要があります。文字ではなくて音声の影響だとしたら、日本語に原因があるのか、英語に原因があるのか。一つずつ調べていく必要があるのです。

さらに、原因が明らかになった場合、その原因が日本語だけの問題なのか、それとも他の言語にも見られる一般的なもののなかという疑問も生じます。たとえば、日本語に原因があるとすれば、その要因が日本語だけに見られるのか、あるいはイタリア語やフィンランド語の外来語にも見られるのかを検討してみる必要があります。

今日お話しした外来語の促音の研究は、外来語の研究の中でもいろいろなどところに応用できます。今日は、英語から日本語に入ってきた外来語と、イタリア語から日本語に入ってきた語について主にお話し

- 借用語音韻論の詳細
  - ・ 英語 ⇒ 日本語
  - ・ イタリア語 ⇒ 日本語
  - ・ フィンランド語 ⇒ 日本語
  - ・ 韓国語 ⇔ 日本語
  - ・ 英語 ⇒ フィンランド語
  - ・ 英語 ⇒ イタリア語

図29 今後の課題(続)

しました。促音にあたる特徴を持つ言語はもっとたくさんあります。

フィンランド語から日本語に入ってきたらどうなるのか。韓国語にも日本語の促音に似た濃音という音がありますが、その二言語間ではどうなるか。たとえば日本語から韓国語に入った外来語や日本語を聞いた韓国語話者はどうなるのか。逆に韓国語から日本語に入った語や、韓国語を日本人が知覚する場合にはどうなるのか。さらに、英語からフィンランド語に入った単語や、英語からイタリア語に入った単語ではどうなるか。このように研究の対象をかぎりなく増やすことができます(図29)。

このような研究を今後も続けていきたいと考えていますが、ここにいらっしゃる皆さんも、このような疑問・謎に関心をお持ちであれば、ぜひ仲間に入って一緒に探求していただければと願っております。



## 〈ソトから見た日本語の特質と普遍性〉

## 言語の普遍性と多様性

## 自動詞・他動詞の対応にみられる普遍的傾向

言語対照研究系教授

ブラシャント・パルデシ

## はじめに

今日は、インドで数千人のマニアが学習している日本語の東京方言でお話します。発音のおかしいところがありましたらご容赦ください。

窪蘭先生から名字の説明がありました。私の名字もインドで非常に珍しく、パルデシは姓、ブラシャントは名です。パルデシとは、外国人という意味ですので、インドで「パルデシさん」というと「外国人さん」となるので、みんなにブラシャントと呼んでとお願いしています。ブラシャントは「太平」、静かな人という意味ですが、私は静かではありません。

窪蘭先生から促音の話がありました。私の母語であるマラーティー語には促音があります。隣のヒンディー語と同じです。また、木部先生から、「私たち」という単語が、相手を含むか含まないかという話がありました。マラーティー語でも別々の二つの語彙を用意しています。しかし、隣のヒンディー語は、古代インドのサンスクリット語から生まれた姉妹言語ですが、その区別はありません。南インドのドラヴィダ系の言語には区別があります。

今日は、まず言語現象について詳細に説明し、そのあと、なぜ当該

現象はそうなっているかを説明します。私のやっている研究は、言語の普遍性と多様性を記述・説明することですので、なるべく多くの言語で、同じ現象を、同じ方法論で調べ、そこにどんな類似点があるか、どんな違いがあるかをお話し、そのあと、それを地図上に表示していきます。ヒンディー語の「私たち」には、相手を含むか含まないかという違いはありませんが、その隣にあるマラーティー語にその区別があります。マラーティー語の隣にあるドラヴィダ系の言語にも同



ブラシャント・パルデシ (Prashant PARDESHI)

言語対照研究系教授。インド・ブネー市生まれ。博士(学術)(神戸大学)。インドで日本語教師をしていた時、学生からの質問にうまく答えることができず、言語の仕組みを客観的に分析・理解する必要性を感じ、日本への留学を決意し、言語学の世界に足を踏み入れました。母語のマラーティー語と日本語の対照研究から始まった研究は、その後興味の対象が拡大するにつれいつの間にかアジア諸語の対照研究に発展していきました。言語そのものおよび言語と文化のより深い理解を目指して、さまざまな言語を学ぶことにも力を入れています。専門は言語類型論、対照言語学。主な著書は『自動詞・他動詞の対照(シリーズ言語対照(外から見る日本語)第四巻)』(共著: 西光義弘、くろしお出版、2010年)、『言語のタイポロジー認知類型論のアプローチ(講座: 認知言語学のフロンティア 第五巻)(講座: 認知言語学のフロンティア)』(共著: 堀江薫、研究社、2009年)など。



様の区別があります。地図上でこの分布を描くことによってドラヴィダ系の言語からマラーティー語にこの現象が借用された可能性を可視化することができます。今日の話のキーワードは「地図」です。

まず、日本語の自他動詞の形がどうなっているか、長さはどうか。長さ・複雑さは同じ意味で使っているの、発音の長さでいきます。そのあと世界の言語を同じ手法で自他動詞の形・長さ・複雑さを調べて日本語と比べた場合、どんな類似点を観察でき、どんな違いを発見できるのかという話をします。次に、なぜそのような違いがでくるのか、類似点があるのかを説明します。そして最後に、日本語の多義的自他動詞について、われわれ学習者はどう学ぶかについて考えたいと思います。

## 第一部 日本語の自他動詞の形・長さ・複雑さ

日本語を母語とする人にはまったく問題ないわけですが、「ドアが開いた」「ドアを開けた」で、自動詞は「開いた」、他動詞は「開けた」です。「バットが折れた」「バットを折った」「折れる」と「折る」、「開く」と「開ける」、自動詞と他動詞は形のうえで違っています。でも、英語では、自動詞も他動詞も「open」「break」です。日本語と英語だけを比べると、極端に違いが見えます。二つの言語どれを見ても違うのは当たり前です。しかし、その表面的な違いを見るのではなく、もっとたくさんさんの言語を調べていくと、いろいろな言語はグループごとに分けることができ、そのグループ間に連続性があるようなことが見えてきたりします。

まず、一つめの謎を考えます。

日本語の自他動詞の形です。図

1で、自動詞と他動詞を示しています。ローマ字表記をする、他動詞の「乾かす (kawak-as-u)」のほうが自動詞の「乾く (kawak-u)」より長く、「凍る (koor-u)」も他動詞のほうが長くなっています。逆のパターンもあります。「壊す (kow-as-u)」は短く、「壊れる (kow-are-ru)」が長く、「裂・割く (sak-u)」は短く、「裂・割ける (sak-e-ru)」は長い。どのような場合に、自動詞のほうが短く、他動詞のほうが長くなるのでしょうか。逆に、どんな場合は、他動詞のほうが短く、自動詞のほうが長くなるのでしょうか。

このようなことは、言語学的に大変関心があります。さきほど窪田先生の話にあったように、これは偶然ですみたいなことをいうと、科学にはなりません。しかし、たくさんさんの言語を調べてみると、きちんとした理由が見えてきます。言語学者の作業は、そのような背後にある原理、理由を究明することです。それがわれわれの仕事ですので、たくさんさんの言語を比べる必要があります。さきほどの日本語の自他動詞に見られるような形・長さ・複雑さの問題を少し専門的にいうと、

### ◆日本語の自他動詞の形・長さ・複雑さ：非対称性

| 自動詞                |   | 他動詞            |
|--------------------|---|----------------|
| 乾く kawak-u         | < | 乾かす kawak-as-u |
| 凍る koor-u          | < | 凍らす koor-as-u  |
| →他動詞のほうが自動詞より長い・複雑 |   |                |
| 壊れる kow-are-ru     | > | 壊す kow-as-u    |
| 裂・割ける sak-e-ru     | > | 裂・割く sak-u     |
| →自動詞のほうが他動詞より長い・複雑 |   |                |

図1 日本語の自他動詞の形

「非対称性」です。自動詞と他動詞のあいだに非対称性が見られます。ある場合は他動詞のほうが長く、ある場合は他動詞のほうが短い。どうしてだろうか、というのが疑問点です。

その謎を解き明かすために、世界の言語の自他動詞を調べて、比較する試みをやっております。

## 第二部 世界の言語の自他動詞の形・長さ・複雑さ

前川先生から紹介があった、現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCWJ) で検索をかけて動詞だけを抽出して、その動詞のなかでサ変動詞を全部捨て、和語動詞だけを残します。その和語の動詞に、対になるものがあるかどうか調べます。たとえば、「開く」「開ける」「割く」「割ける」「凍る」「凍らす」のように、みごとに対をなしている動詞がいっぱいできます。しかし、英語では自動詞も他動詞も形は同じになっているかと思えます。

現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCWJ) ですべて検索して日本語にどれくらい対があるかというと、五四〇以上あります。これらの自他動詞をどのように覚えるか、使い分けるかは英語や中国語を母語とする

|                                   |                                       |                                       |                                     |
|-----------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 起きる: 起こす wake up/wake up       | 9. 集まる: 集める                           | 17. 繋がる: 繋ぐ、繋げる connect (intr.)/(tr.) | 25. 凍る: 凍らせる freeze (intr.)/(tr.)   |
| 2. 折れる・割れる: 折る・割る break/break     | 10. 広がる: 広げる spread (intr.)/(tr.)     | 18. 沸く: 沸かす boil (intr.)/(tr.)        | 26. 溶ける: 溶かす dissolve (intr.)/(tr.) |
| 3. 焼ける: 焼く burn/burn              | 11. 沈む: 沈める sink (intr.)/(tr.)        | 19. 揺れる: 揺らす rock (intr.)/(tr.)       | 27. 満ちる: 満たす fill (intr.)/(tr.)     |
| 4. 死ぬ: 殺す die/kill                | 12. 変わる: 変える change (intr.)/(tr.)     | 20. 消える: 消す go out/put out            | 28. 直る: 直す improve (intr.)/(tr.)    |
| 5. 開く: 開ける: 開く: 開く open/open      | 13. 溶ける: 溶かす melt (intr.)/(tr.)       | 21. 上がる: 上げる rise/raise               | 29. 乾く: 乾かす dry (intr.)/(tr.)       |
| 6. 閉じる: 閉ざす: 閉まる: 閉める close/close | 14. 壊れる: 壊す be destroyed/destroy      | 22. 終わる: 終える finish (intr.)/(tr.)     | 30. 裂ける: 裂く split (intr.)/(tr.)     |
| 7. 始まる: 始める begin/begin           | 15. なくなる: なくす get lost/lose           | 23. 回る: 回す turn (intr.)/(tr.)         | 31. 止まる: 止める stop (intr.)/(tr.)     |
| 8. 教わる: 教える learn/teach           | 16. 発達する: 発達させる develop (intr.)/(tr.) | 24. 転がる: 転がす roll (intr.)/(tr.)       |                                     |

Haspelmath (1993: 97) が調査した 31 の動詞対

図2 世界の言語の自他動詞の調査票

る学習者にとって大変難しい問題です。

世界のたくさんの言語を調べるためには、調べる範囲を狭めないといけないので、調査規模の大きな研究をやるときは、図2に示す三十一の動詞対を定めています。この三十一対を選ぶには理由があります。特に自動詞と他動詞の対がでてきやすいような動詞をあえて選んでいるわけです。同じような意味をもつ動詞対をいろいろな言語で調べ、もし違いがでてきたら、その違いはなぜでてくるのかを考えることになります。

Haspelmath は、三十一の動詞対を二一言語で調べ、そのデータを分析した研究論文を一九九三年に発表しています。研究を進めるうえで、収集したデータを分類しなければならぬのですが、分類の基準をどうするか重要な課題です。図3は派生型による五分類を示しています。専門的な名前はさておき、他動詞より自動詞のほうが長い、日本語の「裂ける」「裂く」は「A」の「反使役化型」といいます。また、「開く」「開ける」は自動詞より他動詞のほうが長いものは、「使役化型」であるので「C」で表します。それ以外の三分類には方向がありません。たとえば、日本語の「開(ひらく)」「開(ひらく)」は同じ単語で、「死ぬ」「殺す」はまったく違う単語で

で調べ、そのデータを分析した研究論文を一九九三年に発表しています。研究を進めるうえで、収集したデータを分類しなければならぬのですが、分類の基準をどうするか重要な課題です。図3は派生型による五分類を示しています。専門的な名前はさておき、他動詞より自動詞のほうが長い、日本語の「裂ける」「裂く」は「A」の「反使役化型」といいます。また、「開く」「開ける」は自動詞より他動詞のほうが長いものは、「使役化型」であるので「C」で表します。それ以外の三分類には方向がありません。たとえば、日本語の「開(ひらく)」「開(ひらく)」は同じ単語で、「死ぬ」「殺す」はまったく違う単語で

す。「死ぬ」から「殺す」が派生するのか、「殺す」から「死ぬ」が派生するのか、言語形式が異なるため判断できません。

日本語でもっと面白いのは、「始まる」「始める」です。語幹「hajim-」が同じで、それに「aru」「iru」がついて、どちらが派生元でどちらが派生先かを決めるのは大変難しいもので、これを「E」タイプと呼んでいます。

### 第三部 自他動詞の形・長さ・複雑さから見えてくる言語の普遍性と多様性

実際にわれわれの共同研究プロジェクトで約六〇言語を調べ、分析し、データベースを構築しました(The World Atlas of Transitivity Pairs (WATP)、使役交替言語地図)。そのデータベースは、URL: <http://warp.ninja.ac.jp>で無料公開しています。自分の家のパソコンでアクセスすることができます。データもすべてダウンロードできます。このデータベースを使うと、なにが見えてくるでしょうか。たとえば、「沸く」「沸かす」という動詞を、世界の六〇言語でどうなっているかを調べてみました。図4の円グラフにあるように、八二%の言語で日本語と同じように「沸く」が短く、「沸かす」が長くなっていることを確認できます。日本語だけではなく、周りのいろいろな言語で、同じようなパターンが見られます。しかし、日本のなかでも、逆の派生をしている言語があります。それは北秋田方言です。これについては後ほど触れます。

また、「裂く」「裂ける」「割る」「割れる」のような動詞を調べると、

日本語でも日本国内で話されている方言でも、他動詞のほうが短く、自動詞のほうが長い。このパターンは、世界のほかの言語でも見られますが、インドの言語では、みな逆のパターンになっています。そして、類似した派生のパターンを示す言語は、ある特定の地域にかたまっていることが見えてきます。図5は、六〇言語のデータから見えてくるパターンを可視化したものです。

この三一对のデータから面白いことが見えてきます。

図6の一番から二番の動詞と、三〇番から逆に二四番の動詞を見ると、前者は自動詞のほうが短く、使役型「C」のパターンが非常に多くなっています。後者は、その逆のパターン、つまり、他動詞のほうが短いパターンが見られます。ただし、真ん中の一三番目から二三番目の動詞対では、いろいろ逆転が起こったりしています。これはプロトタイプ的な効果といえます。典型的な鳥とそうでない鳥。

| 派生の方向の有無 | 派生型                   | 形式的な関係                                       |
|----------|-----------------------|--|
| 方向あり     | A<br>(Anti-causative) | 自動詞(有標)←他動詞(無標) 自動詞>他動詞<br>自動化・反使役化型(焼ける←焼く) |
|          | C<br>(Causative)      | 自動詞(無標)→他動詞(有標) 自動詞<他動詞<br>他動化・使役化型(開く→開ける)  |
| 方向なし     | E<br>(Equipollent)    | 両方が有標(共通の語幹、標識がそれぞれ異なる)<br>両極型(直る:直す)        |
|          | L<br>(Labile)         | 同じ語根が自動詞と他動詞として使える<br>自他同形型(開く:開く) 自動詞=他動詞   |
|          | S<br>(Suppletive)     | 異なる語根<br>補充型(死ぬ:殺す) 自動詞≠他動詞                  |
|          | O<br>(Others)         | 以上のいずれにも該当しない<br>(主に無対)                      |

図3 世界の言語の自他動詞の形・長さ・複雑さを分類する基準



図4 個別の動詞対の派生型の選好の傾向：「沸く<沸かす」

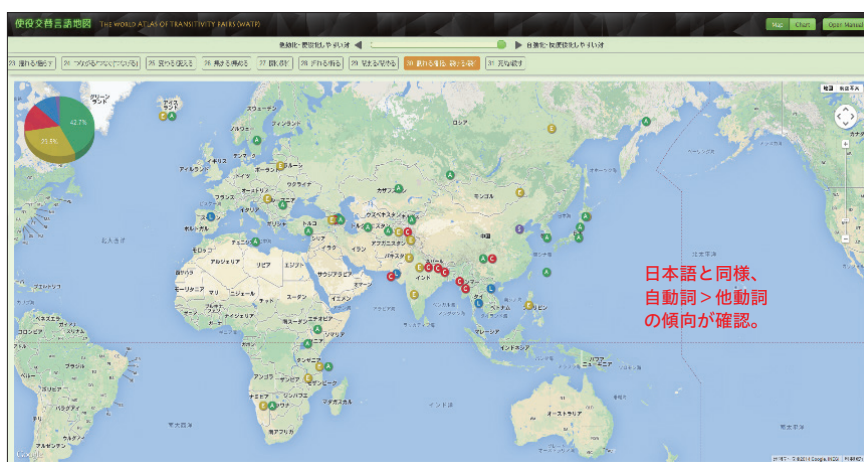
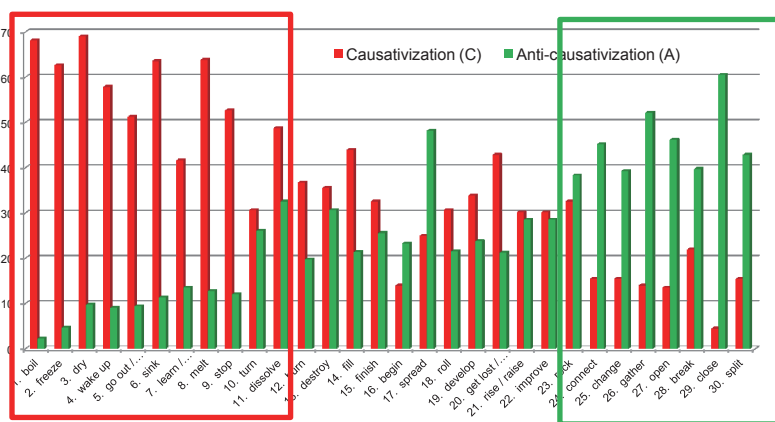


図5 個別の動詞対の派生型の選好の傾向：「割れる、裂ける>割る、裂く」



自動詞<他動詞 (例: 沸く<沸かす)

自動詞>他動詞 (例: 裂ける>裂く)

図6 プロトタイプ効果



典型的な鳥というと、日本ではスズメなどでしょうが、ペンギンやダチョウも鳥は鳥ですが、典型的な鳥ではありません。ですから、一番から一二番あたりの動詞対は典型的な使役型で二三番目あたりから三〇番目あたりの動詞対は典型的な逆使役型で、その中間のものはダチョウやペンギンみたいな非典型的なものです。世界規模で言語を見ていくと、上記のような言語間の類似点や相違点が見えてきます。

「死ぬ」「殺す」は、世界の六二%の言語で、それぞれの形式が異なる単語を用いています(図7)。殺したら罪で訴えることができますが、死んだら自然死ですので相手を訴えることはできません。重大な意味の違いがあるわけで、多くの言語は別々の単語を用意していることがこのグラフから見てとれます。

## 個別言語の派生型の選好

さきほどまでは、一つの動詞「沸く」「沸かす」をピックアップして、六〇言語のデータにおいて、他動詞のほうが長いパターンと自動詞のほうが長いパターンのうち、どの言語がどのパターンを示すのか、またどのパターンが優勢かを地図上の円グラフで確認しましたが、三一の動詞対を同時に全部見たい。この場合は「Chart(チャート)」というボタンを利用します。この「チャート」ボタンを押すと、図3で説明した五つのパターンのうち各言語に関して、それぞれのパターンの分布を確認することができます(図8)。図8では自動詞から他動詞を派生するパターン(赤で表示)が優勢である言語を降順で並べてあります。ネワール語、アイヌ語、モンゴル語、スインディー語などアジア諸語

が上位を占めることが見えてきます。逆に、他動詞から自動詞を派生するパターン(緑で表示)が優勢である言語を降順で並べ替えると、ルーマニア語、スウェーデン語などヨーロッパの言語が上位を占めることが見えてきます(図9)。

英語のように自動詞と他動詞が同形である「L」を押してみると、バスク語、英語、北京語、タイ語が上位に浮上します。このように、自動詞と他動詞の形式的な関係のパターンを基準にデータを簡単に並べ替えることができ、それによって複数の観点から同じデータを可視化すると、視覚的に確認することができます。

今日初めて披露しますが、Haspelmathは二二言語でこのようなことを調べましたが、われわれは六〇言語で調べてみました。両方とも同じ実験をやっているのです、Haspelmathの仮説が正しいのであれば、同じ結果がでてくるはずですが、これは人文系ではあまりやりませんが、再現可能性を自分の眼で確認できるようなものをつくりました。これは『slopegraph』というものです(図10)。左はHaspelmathの二二言語

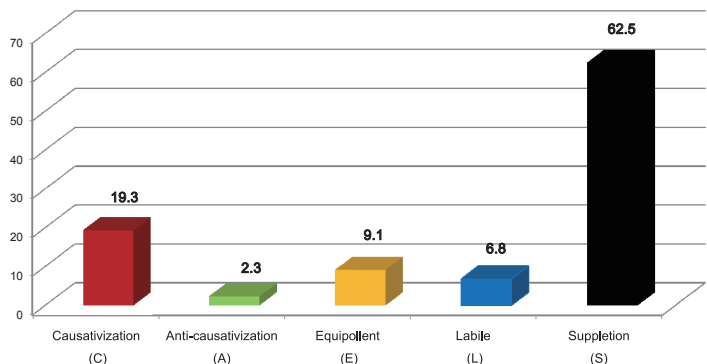


図7 諸言語における「死ぬ」と「殺す」の形式的な関係



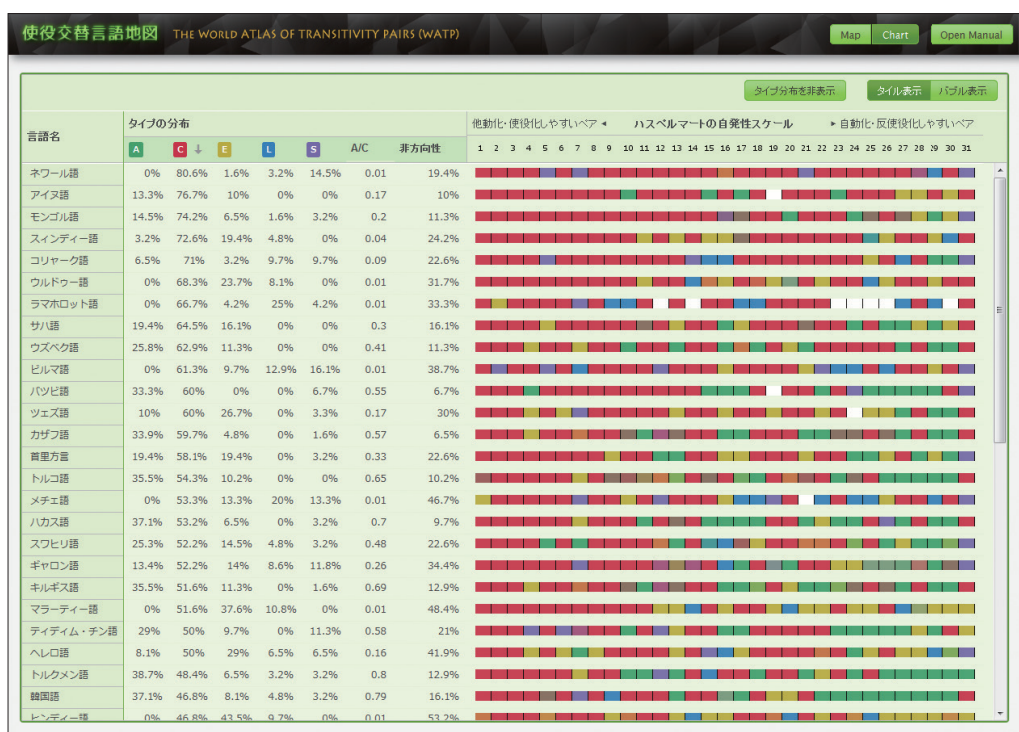


図8 個別言語の派生型の選好：使役型

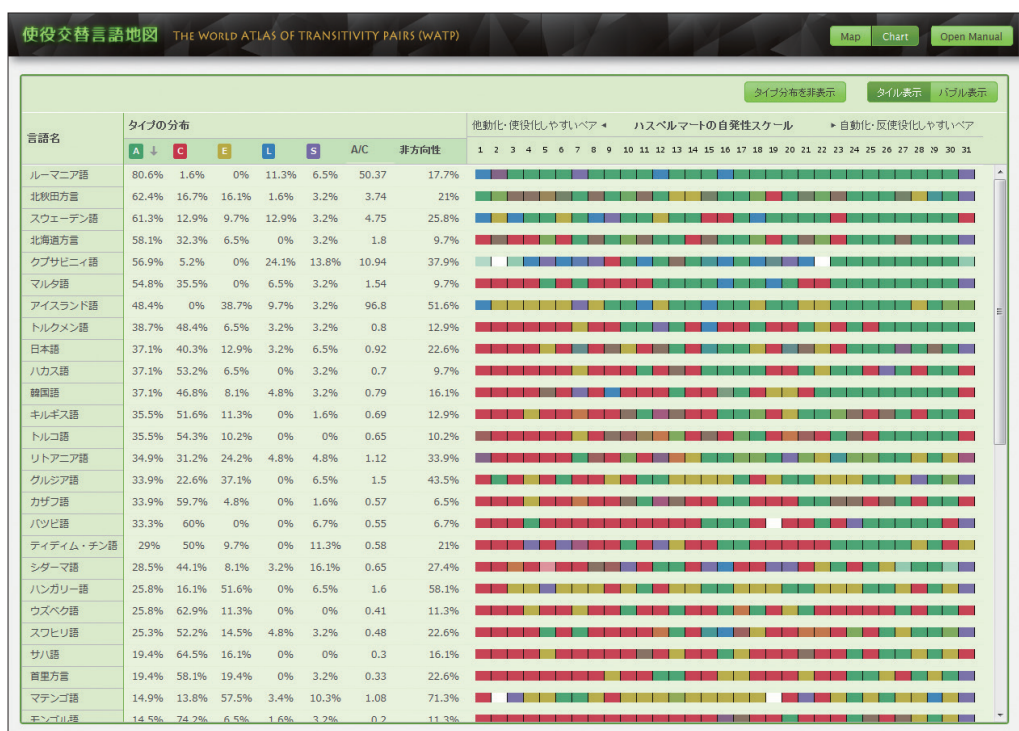


図9 個別言語の派生型の選好：反使役型

のデータ、右はわれわれが集めた六〇言語のデータです。この図からも見てとれますが、上のほうは順位の変更はありません。下のほうもわりと安定しています。ところが、真ん中のほうが順位が相当入れ替わることが確認できます。データベース化すると、普段は見えないような、順位の変動を眼で確認することができます。『slopegraph』はただ公開していませんが、あと一か月後程度で公開します。

もう一つ、まだ公開していませんが、面白い機能があります。任意の二つの言語を選んで、それを比べてみます。日本語で、北秋田方言と首里方言を選びました。一方は北日本、もう一方は南日本。どんな違いがあるか、眼で確認することができます(図11)。左が首里方言、右が北秋田方言です。首里方言はほとんど「C」で、自動詞から他動詞が派生しています。北秋田方言にはAが多数でできます。北と南でまったく違います。南のほうでは南アジアと同じように自動詞から他動詞が派生し、北のほうと違うことが、二つの言語を隣どうしに置いてみて初めてわかります。この機能もあと少しで公開しようと思っています。

これまでは、ある言語現象を、ある特定の言語で、同じような方法でたくさんデータを集め、データベース化して比べ、地図のうえで見せ、こういう現象がありますと記述してきましたし、可視化してきました。しかしなぜ、ある特定の動詞で、自動詞のほうが短く、他動詞のほうが長いのか。逆に、ある特定の動詞は、なぜ自動詞のほうが長く、他動詞のほうが短いのかを説明しなければいけない。説明があつて初めて、あゝなるほど、とわかるわけです。

このことについて優れた研究をしたのは、なんと、日本語を研究し

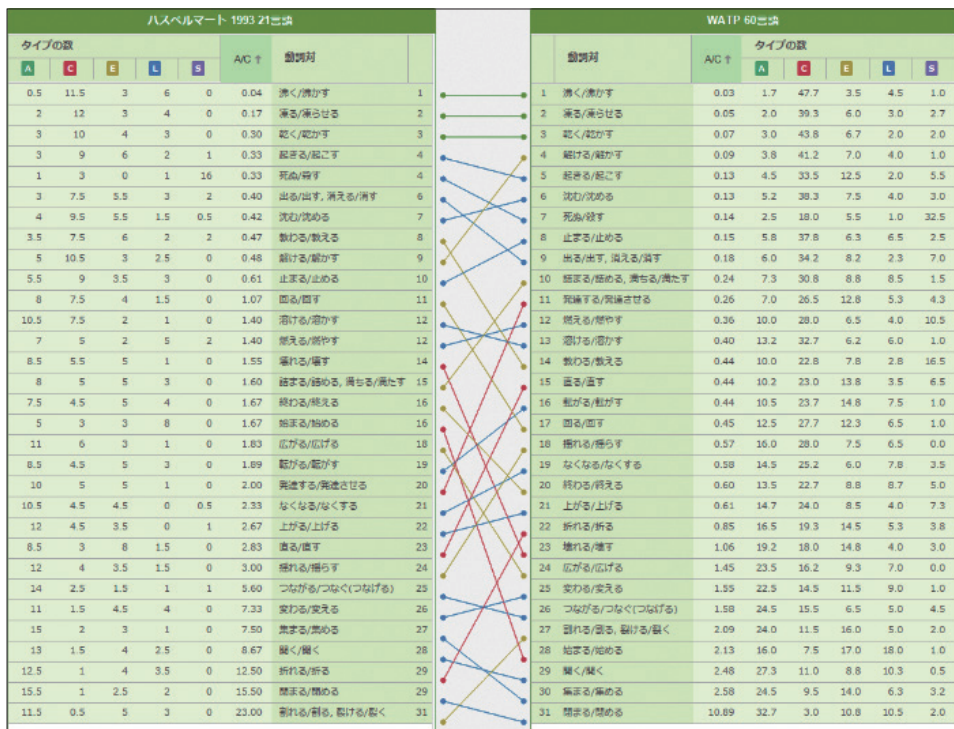


図10 新機能：slopegraph

| ID | Haspelmath (1993) Pair | Shuri Dialect |           |      | Kita Akita Dialect |               |      |
|----|------------------------|---------------|-----------|------|--------------------|---------------|------|
|    |                        | Non-causative | Causative | Type | Non-causative      | Causative     | Type |
| 1  | boil                   | wak-          | wakas-    | C    | waga(s)-a(s)-u     | wagas-u       | A    |
|    |                        |               |           |      |                    |               |      |
| 2  | freeze                 | kuhwa-        | kuhwas-   | C    | koor-as-ar-u       | koor-a(ga)s-u | E    |
|    |                        |               |           |      | kooras-ar-u        | koorahe-ru    | A    |
| 3  | dry                    | kazrah-       | kazrahas- | C    | kawag-u            | kawag-as-u    | C    |
|    |                        |               |           |      | kuwag-as-ar-u      | kawag-as-u    | A    |
| 4  | wake up                | ʔuku-         | ʔukus-    | C    | ogi-ru             | ogos-u        | C    |
|    |                        |               |           |      | ogi-as-ar-u        | ogos-u        | A    |
| 5  | go out/put out         | caa-          | caas-     | C    | da-ru              | das-u         | C    |
|    |                        |               |           |      | das-as-ar-u        | das-u         | A    |
| 6  | sink                   | sizim-        | sizimi-   | C    | tsie-ru (kie-ru)   | kas-u         | E    |
|    |                        |               |           |      | sizim-u            | sizim-e-ru    | C    |
| 7  | learn/teach            | nara-         | naraas-   | C    | sizime-rasar-u     | sizime-ru     | A    |
|    |                        |               |           |      | sizimasa-ru        | sizime-ru     | A    |
| 8  | melt                   | tuki-         | tukas-    | C    | osowar-u           | ohe-ru        | A    |
|    |                        |               |           |      | toge-ru            | togas-u       | C    |
| 9  | stop                   | tuma-         | tumi-     | E    | togas-as-ar-u      | togas-u       | A    |
|    |                        |               |           |      | tom-ar-u           | tom-e-ru      | A    |
| 10 | turn                   | uma-          | umas-     | C    | tom-e-ru           | tom-e-ru      | A    |
|    |                        | migu-         | miguras-  | C    | mae-ar-u           | mae-as-u      | E    |
| 11 | dissolve               | tuki-         | tukas-    | C    | mae-ar-asar-u      | mae-as-u      | A    |
|    |                        |               |           |      | mae-as-asar-u      | mae-as-u      | A    |

図 11 新機能：comparison (二言語比較)

ている日本生まれで日本語が非常に達者なアメリカ人の「Jacobsen 先生」です。Jacobsen 先生は、以前私どもの研究所に客員研究員でおられたことがあります。この先生の説明では、「特定の変化を外的な力の有無と結びつけることが普通である。その結びつきは世界の経験、つまりその変化の最も典型的な起こり方に基づいている。ある種の変化は、通常、自発的に起きていると認識される……それに対して、ある種の

変化は、通常、外的な力によってもたらされていると認識される……有標性理論は、経験における通常性が言語的通常性に反映されること、つまりよりシンプルな形式がより複雑な形式に比べて通常（無標）であることを予測する」と。

この先生は、英語のネイティブスピーカーで、日本語もほぼネイティブスピーカーで、両方の言語が非常によくわかっているため、このような研究ができたのだと思います。

ただ、「裂く」「裂ける」だと、道具を持って、なにかを「裂く」ことが基本です。物事が勝手に「裂く」ことはありません。ですから、なぜ「裂く」が短いのか。われわれが理解している道具を持って、なにかを「裂く」のが典型的ですので、その場合は他動詞が基本です。自動詞は派生されます。しかし、「沸く」「沸かす」はその逆です。自然界でも、日本には温泉がたくさんあるので、水が沸いたり、人間が火を焚いて沸かしたり。「火を焚いて沸かす」というのは複雑な意味ですので、言語のうえでも複雑になっています。これはアイコンク（類像的）な説明といえます。

つまり、概念的に複雑なものは形のうえでも複雑に表します。概念的に単純なものは、形のうえでも短く表す。こういう概念と言語形式の単純さ・複雑さのあいだに写像関係があるのではないかと「Jacobsen 先生は説明して





この先生の研究から示唆を得て、さきほどの Haspelmath は、言語の数を増やしているわけですから、日本語の研究が発点となって、世界の言語に大きく貢献している非常に面白い現象の一つだと思います。

所長から、ソトから見ると日本語、ウチから見ると日本語という話がありました。日本語からソトの言語を見ると、このような知見で世界の言語が分析できるといふ素晴らしい研究が日本語から始まったといえると思います。専門的に、これは diagrammatic iconicity と呼ばれていますが、専門的な話はそこまでしませんが、

## 第四部 日本語の多義的自他動詞を学ぶ

私は日本語学習者で、過去三五年間、日本語を学んでいますけれど、一向に上達しません。なんでだろうかと思っています。私みたいに悩んでいる学習者が世界中にいます。

発表するときにいつもあがってしまいます。この「あがってしまう」の意味は、アドバンスな日本語です。「温度が上がる」のは、誰でも理解できます。発表するとき、「みんなの前であがってしまう」というのは、どの教科書でも教えているわけではありません。学習者がこれをどう勉強すればいいか、世界中の日本語学習者の大きな悩みのタネです。市販のどの国語辞書で「あがる」を調べてみても、ほとんどの辞書は日本人のためにつくっているものです。私が日本語の勉強を始めた

### 基本動詞ハンドブック

ハンドブックで調べる

■「基本動詞ハンドブック」とは

コミュニケーションの基本単位となる文の骨格を決める重要な要素の一つが動詞としての動詞です。日常生活でよく使用される基本動詞のほとんどが、複数の意味をもつ多義動詞で構成されています。このような現象は日本語だけでなく、世界中の言語に広く見られます。

多義動詞には、まず中心となる意味（中心義あるいは基本義）があり、そこから様々な意味が派生されます。例えば、動詞「上がる」には、「上の方への物理的な移動」という中心義があります。「階段上がる」、「ステージ上がる」というときの「上がる」は、「より高いところへ移動する」という中心義です。この中心義から、水や空気の移動（「風が吹くから上がる」）、車の内部への移動（「車の窓に手を上げる」）、音（「お風呂にあがりました」）などの意味が派生しますが、まだこれらの意味では、物理的な移動を要する点では中心義と共通しています。しかし、次の段階になると、もはや物理的な移動は表さなくなります。例えば、数量の増加（「消費税が上がる」）や、レベルの上昇（「評価が上がる」）では、物理的な移動は見られず、「基準よりも増える（＝上になる）」という点で中心義とつながっています。さらに、緊張するという意味の「人前である」という表現の背後には、「心が上方に移動することは、心が不安定な好ましくない状態になる」という捉え方が存在します。

基本動詞ハンドブックは、日本語学習者・日本語教師が基本動詞の理解を深めることができるように、このような基本動詞の多義的な意味の広がりや図解なども用いて分かりやすく解説したオンラインツールです。また、例文、コロケーションなどの執筆には、国語研の「現代日本語書き言葉データベース(BCCWJ)」(約1億語)や筑波大学の「筑波ウェブコーパス」(約11億語)などの、大規模日本語コーパスを積極的に活用し、他のレファレンスには見られない生きた情報を提供しています。

このハンドブックは

特長

使用したコーパスおよびツール

公開版制作メンバー

プロトタイプ版制作メンバー

プロジェクトの成果

ご利用にあたって

更新履歴

お問い合わせ

更新情報

2016.5.17  
10項目し語を追加しました (全75項目出)

2015.11.24  
新項目し語を追加しました (全65項目出)

2015.7.7  
新項目し語に意味別、50項目を追加しました。4項目し語を追加しました (全57項目出)

日本語学習者・日本語教師が基本動詞の理解を深めることができるように、基本動詞の多義的な意味の広がりや図解なども用いて分かりやすく解説したオンラインツール(辞典)

→<http://verbhandbook.ninjal.ac.jp/>

図12 基本動詞ハンドブック

とき、国語辞書を使って調べました。大変な作業でした。一行読んでも、何時間かけても読めない漢字がでてきて、それを漢和辞典を調べ、そこからこれは「湯桶読み」なのか「重箱読み」なのか、大変な問題がありました。まあ、マニアはそんなことを楽しくやりますので、長く勉強を続けることができるわけです。私みたいに。マニアでないと途中で挫折します。

教科書にでてこない、インドにいて周りで日本語が話されていない、ネイティブの先生がいないとき、どうやって勉強するのかという問題があります。基本動詞になればなるほど難しく、たくさん意味があります。「あがる」という動詞は多義的で、意味はなんと二〇を越えます。



図13 多義的自他動詞の学習

この意味を全部説明している教科書はありません。イメージとして、なんとか下にあるものを「上げる」という説明のものがほとんどです。

そこで、『基本動詞ハンドブック』を、いろいろな苦勞をしてつくりました(図12)。このたくさんの意味がどうつながっているのか、日本語のネイティブスピーカーは頭のなかでわかっているのに説明は不要ですが、外国人には説明しないといけないので、その説明をこのハンドブックではします(図13)。紙の辞書だと印刷が大変なので短くしますが、われわれはインターネット上でやるので、スペースはいくらでもありますので、たくさんの文字数を使って、説明することが出来ます。

例文にはすべて音声をつけています。難しい意味は、アニメーションを使って説明しています。緊張して「あがる」は、三コマ漫画で説明し

ています。そのようなものをいま無料公開しています。この辞書をつくるために、日本人の正用と外国人の誤用の両方のコーパスを使って、客観的なデータに基づいて例文をつくることをやっております。前川先生から話があったBCWJという一億語のコーパスを使っています。日本人の正用を調べるために、たとえば「○○があがる」、その「が」のところの前の名詞はどういう名詞なのかを、これで調べる事ができます。また、「冷える」と「冷める」はどう違うのかも、このコーパスを使って調べることが出来ます。このようなさまざまなコーパスを使つたうえで見出しを執筆しています。執筆者もたくさんいます。文法的に正しくない文(非文)が普通の辞書にはできませんが、われわれの辞書では、正しい文とともに非文も載せていて、それはなぜ正しくないかを説明しています。たとえば「赤ちゃんがあがつてしまった」とはいえない。なぜかという、赤ちゃんにはそういう精神的な能力はない、ということの説明するわけです。なぜできないかも書かなければいけない。それがあって、初めて学習者は納得して「なるほどね」ということになるわけです。

## 結 び

世界諸言語と比較・対照してこそ、日本語が世界の他の言語とどういうところが似ているか(類似点・普遍的)、または、どういうところが異なっているか(相違点・個別性・多様性)が見えてきます。理論研究の成果を、教育現場により積極的に還元する必要があると私は思っています。ありがとうございました。



## 〈ソトとウチの接点としての日本語学習〉

日本人と外国人の日本語コミュニケーション  
学習者の「安全な誤用」と「危険な正用」

日本語教育研究・情報センター教授

迫田 久美子

## ソトとウチの接点としての日本語学習

現在、日本に住んでいる在留外国人数の推移を法務省が調査しました。日本語を学んでいる人は、日本に一四万人、世界では三九八万人、約四〇〇万人いました。実際に日本に住んでいる外国人の数は、最新の平成二七年度のデータでは、なんと二二万二、八九二人(図1)。一時期少し落ち込みましたが増加が続いています。外国人の方々も一緒に住んで暮らしていく社会が生まれつつあります。私の今日の話の狙いは、ソトとウチの接点としての日本語学習です。日本人と外国人の日本語によるコミュニケーションでは、文法の正確さ以上に、使用の適切さが重要になります。今回、日本語学習者のコーパスを分析し、不適切な日本語使用の背景には、互いの文化の違いが影響している可能性があることがわかったという研究をご紹介します。

まず、「安全な誤用」と「危険な正用」について述べ、次に、日本語学習者のコーパスの話をします。そして、コーパスの中のロールプレイに焦点をあて、その中の一部の結果についてみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

## はじめに「安全な誤用・危険な正用」

私は四〇年以上、日本語を教えており、学習者の誤用は、食べることに寝ることの次に、大好きです。学習者たちが一生懸命考え、自分たちのルールでことを書いたり発したりしますので、その中に彼らの文法が見えてきま



迫田 久美子(さこだ くみこ)

日本語教育研究・情報センター教授。博士(教育学)(広島大学)。「先生、どうして『電話中』というのに『結婚中』と言えないのですか」など、学習者から多くの質問を浴び、日本語の知識の無さに危機感を覚え、日本語教師を辞めて大学院に入りました。若い院生に囲まれて、教える立場から学ぶ立場になって味わった新鮮な驚きは今でも忘れられません。ノーベル賞を受賞した朝永振一郎は「不思議だと思うこと、これが科学の芽です。よく観察して確かめ、そして考えること、これが科学の茎です。そうして最後に謎が解ける、これが科学の花です。」と言っています。30年近く教えた学習者たちからもらった研究の種、いつか、花を咲かせたいと思っています。専門は、第二言語としての日本語習得研究・日本語教育方法学。主な著書は『中間言語研究日本語学習者における指示詞コ・ソ・アの習得』(1998年、溪水社)、『日本語学習者の文法習得』(共著 2001年、大修館)、『日本語教育に生かす第二言語習得研究』(2002年、アルク)、『日本語教育のためのコミュニケーション研究』(共著2012、くろしお出版)など。

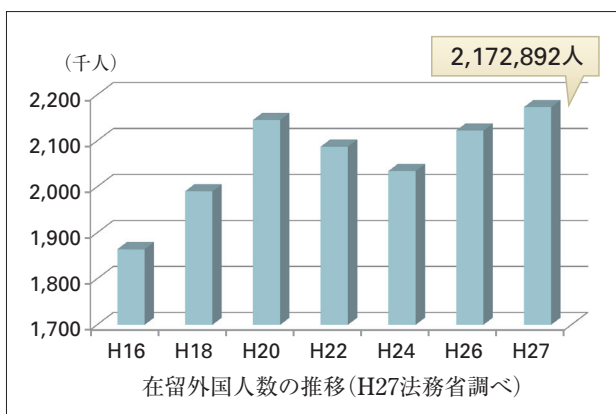


図1 日本在住の外国人の推移

- (1) ○○さんがお客様と電話を望むでしたけど、  
お客さまの外出でメッセージをのこります。  
(韓国・某ホテルのメモ)
- (2) あのときのこと、覚えない、高校生、よく覚えた。  
(中国・学生)
- (3) 花を育つ、野菜を育つ……みんなお母さんがした。  
(英国・女性)

誤用であるが、正用が容易に推測できる。

安全な誤用

図2 日本語学習者の誤用

- (4) T: では、これから調査を始めます。  
S: 先生、よろしくネ。
- (5) T: 日本では、学校は4月から始まります。  
S: へえ、そうなんだ。
- (6) T: 最近は海外でも和食の店が増えたそうですね。  
S: そうそう。私も、日本のラーメン、大好き。

文法的には正用であるが、  
聞き手には不快感を与えてしまう。

危険な誤用

図3 日本語学習者の誤用

動詞の問題です。

「花を育つ、野菜を育つ……みんなお母さんがした」。これは、自他

「あのときのこと、覚えない、高校生、よく覚えた」。これも、だいたいということが言いたいかわかります。あのときのこと覚えていないとか、高校生のときはよく覚えていたということですね。

「あのときのこと、覚えな、高校生、よく覚えた」。これも、だいたいということが言いたいかわかります。あのときのこと覚えていないとか、高校生のときはよく覚えていたということですね。

「花を育つ、野菜を育つ……みんなお母さんがした」。これは、自他

「あのときのこと、覚えな、高校生、よく覚えた」。これも、だいたいということが言いたいかわかります。あのときのこと覚えていないとか、高校生のときはよく覚えていたということですね。

これまで、こういう文法の正確さに関する誤用を研究してきたのですが、誤用から何が言いたいのかという正しい形式はだいたい推測できます。その意味では、あまり問題になる誤用ではなく、ある意味「安全な誤用」と考えられます(図2)。

しかし、私はここ二、三年海外の日本語学習者のデータを集めておりました。一〇か所くらいに行つて、だいたい一週間で五〇人ほどのデータを集めてきます。そのときに遭遇したのがこういう誤用でした(図3)。

私が、「では、これから調査を始めます」と言ったら、「先生、よろ

しくネ」という声が返ってきました。それから、「日本では、学校は四月から始まります」と言うのと、「へえ、そうなんだ」という反応でした。「最近では海外でも和食の店が増えたそうですね」と言うのと、「そうそう。私も、日本のラーメン、大好き」という返答でした。これは文法的には悪くはありませんが、聞き手は、なんとなくカチーンとくるようなところがあります。私自身がちょっと不快感を覚えたわけです。その意味では、「危険な正用」というレッテルが貼られるかと思っています。

最も驚いたのが次にご紹介する例です。アルバイト先の店長さんに、週三日働いているところを週二日にしてほしいということで、依頼のロールプレイをやります。日本語母語話者にやってもらうと、だいたいみなさん、「あのう、すみません、店長さん、ちょっと、お話ししたいことがあるんですが……」で始まります。ところが、おもしろかったのが学習者の言い方です。皆さん、どのように切りだすと思われま

すか。

「店長さん、ちょっと言いたいことがあります」。これで切り出されたときには、私もほんとうに後ずさりしたくらい、「そうか、そういう表現になるのか」という、ある意味での驚きでした。学習者は、けっして彼は文句をいうつもりで言っているわけではなく、ほんとうにお願いをしたいのです。たぶん、その人の母語ではこのような言い方をするのかもしれない。しかし、これらは少しの表現の違いですが、お互いのコミュニケーションに影響がでてくるのではないでし

## 日本語学習者コーパス

現在、日本語学習者コーパスの構築を目指して作業をしております。『JAS: International corpus of Japanese as a second language』と名付けました。多言語母語の日本語学習者横断コーパス（以下、『多言語横断コーパス』とする）です。なぜ多言語かという点、異なる一二言語を母語とする海外一七か国（二〇地域）の学習者言語の発話と作文データを集めているからです。言語類型をいろいろ考えて、**図4**に示す一二言語を母語とする学習者のデータを集めました。本でご紹介するのは、この中の英語、フランス語、スペイン語、中国語を母語とする日本語学習者のデータです。

調査は次のような流れで

### 12の異なった言語とは？

（語系：ゲルマン、ロマンス、シナチベット、アルタイ、オーストロネシア、スラビック他）

- ①英語 ②フランス語 ③スペイン語  
④ドイツ語 ⑤ロシア語 ⑥中国語  
⑦韓国語 ⑧トルコ語 ⑨インドネシア語  
⑩タイ語 ⑪ベトナム語 ⑫ハンガリー語

**図4** 日本語学習者コーパス I-JAS  
（多言語母語の日本語学習者横断コーパス）

### 1. ストーリー・テリング (ST)

4～5コマの絵を見て、物語を作成。

### 2. 対話 (30分)

半構成インタビュー（共通の話題でおしゃべり）

### 3. ロールプレイ (RP)

「依頼」と「断り」

### 4. 絵描写タスク

1枚の絵を見て、日本語で説明

### 5. ストーリー・ライティング

1. のSTのタスクを一定時間を与えてPCで書く。

**図5** 対面調査の内容と流れ

行いました(図5)。最初に、四〇五コマの絵を見て、物語を口頭で話してもらうストーリー・テリング(ST)と、三〇分の半構成インタビューです。つまり、自然なおしゃべりのような形で設定された話題の話をしてもらいます。それからロールプレイ(RP)です。さっき紹介したアルバイトの日数を変えてもらう「依頼」と、「断り」です。さらに、一枚の絵を見て、その描写を日本語で説明してもらいます。最後は、最初に見せたストーリー・テリングを、一定時間を与えて、考えて、パソコンに書いてもらうというものです。本で紹介するのはロールプレイの依頼です。

- I. 多様な種類の異なった母語の学習者を対象。
- II. 各地域で約50人の学習者のデータを収集し、国内の自然環境学習者も含め、最終的には1,000人コーパスを目指している。
- III. すべての学習者に統一の日本語能力テストを実施している (SPOT、J-CAT)。
- IV. 発話と作文のデータに加え、学習者の音声データも公開予定。

図6 I-JAS の特徴

『多言語横断コーパス』の特徴は、多様な種類の異なった母語の学習者を対象として集めていることと、各地域で約五〇人の学習者データを収集し、国内の教室環境と自然環境学習者も含め、最終的には千人コーパスを目指していることです(図6)。また、すべての学習者に統一の日本語能力テストを受けてもらい、その結果をデータとして残しています。さらに、発話と作文のデータに加え、学習者の音声データも公開を予定していることです。現在、文字化の真っ最中ですが、この春(二〇一六年春)、第一次デー

タとして一二言語の学習者一五名ずつと国内の学習者、それから日本人も含めて全部で二二五名のデータを公開する予定です。残りは、第二次から第五次の公開が計画されており、完成は二〇二〇年、オリンピックの年です。

## ロールプレイにおける依頼表現 一・先行研究

本日のデータは、ロールプレイによる依頼表現ですが、まず、先行研究を紹介します。志村・生駒(一九九二)は、英語話者で日本語を学んでいる人たちが対象に、断り場面の表現を日本語母語話者と比較して、いわゆる誤用論の転移 (pragmatic transfer) が見られることを示しました。具体的に言うと、断りの仕方が、英語話者とはたとえ日本語で断っていても、その中にあまり代案を示さない傾向があること、さらに、社会的地位の違い、つまり、目上の人に断っているにもかかわらず、中途終了文(言いさし文)をあまり使わず、直接的にはっきり断る傾向が見られることなどを挙げ、これは、母語の影響ではないかと結論づけています。

また、鯨島(一九九八)は、中国語母語話者を対象に、初級・中級前期・中級後期の三つのレベルで、談話完成テストを用いて、「依頼」場面での特徴および母語の影響を調べています。これは実際に話させるのではなくて、こういう場合、あなたはどのように言いますか、という談話を完成させる筆記テストでした。彼の調査によると、初級あたりは、「〜ください」「〜てくださいませんか」といった言い方から、中

級前期になると、「いいですか」「とてもいいですか」「とてもいいですか」というようにかわり、最終的には、「ですが」のような中途終了文が出てくる段階があることを明らかにしました。特に、「いいですか」「（も）いいですか」といった言い方は、中国語に非常に多いので、これらは中国語の影響ではないか、と結論づけています。

また、猪崎（二〇〇〇）は、フランス語話者の日本語学習者を調べています。日本人母語話者同士の会話では、何かお願いをするとき、「実は、お願いしたいことがあります……」というような予告部分がいられませんが、フランス語話者の学習者はそのような言い方はあまり使いません。おもしろかったのは次です。「変更の依頼」では、日本人は「お願い」とみなしているようですが、フランス語話者はお願いというより交渉だと考えているようですと述べています。そのため、聞く側、日本人には押しつけがましいという印象を与える、という結論を出しています。

これらは、母語というか母文化の影響があるのではないかと論じている先行研究です。

これらの先行研究は、それぞれ問題点があります。鯨島の場合、実際の会話ではなく談話完成テストです。また会話調査では、対象者が、志村・生駒は一〇人、猪崎は七人と非常に少なく、さらに、いずれも母語を一つに限定して調査しています。したがって、複数の異なった母語の学習者ではどうかという点が謎になっています。

## 二. ロールプレイの調査

そこで、今回私は、フランス語話者、スペイン語、英語話者、中国語話者、それぞれ一五名、あわせて六〇名の学習者を調べました。彼らはすべて J-CAT と SPOT という日本語能力テストを受けていますので、その点数に基づき、統計分析をかけ、日本語能力が等質レベルと判定された一五名ずつを選出し、日本語母語話者、つまり日本人一五名と比べてみました。

ロールプレイの内容は、「あなたは、日本料理店でアルバイトをしています。……中略……。いまは、一週間に三日アルバイトしています。しかし、忙しくなってきたので、一週間に二日に変更したいと思っています。そこで、店長に言って、三日から二日にかえてもらうように頼んでください」です。実際の調査では日本語は見せません。それぞれの学習者の母語または英語で作成されたロールカードのどちらかを選んで、読んでもらいます。そして、調査者（日本語母語話者）と対象者が一対一で実施します（図 7）。ここでは、すぐに学習者の申し出に了承を出さないで、「こっちゃんも忙しいんで、なんとかありませんかねえ」と、くいさがる店長側と何回かのやりとりをします。

## 結果の分析

結果の分析を紹介します。ロールプレイ全体は比較的長いのですが、どのように依頼をするかに焦点をあてるために、前半部分のみを三つのパートに分けて分析しました。三つのパートとは、開始部



調査者(日本語母語話者)  
対象者(海外・国内の大学生／国内の外国人就労者)

- 1対1で実施
- ロールカード:互いの役割と対話の内容を説明(対象者の母語または英語)
- 複数回のやりとりを録音する



図7 ロールプレイの実施概要

表1 学習者の発話開始部(A)の文の種類

[開始部の各文の割合]

| 日本語話者 |    |     | フランス語話者 |     |     | スペイン語話者 |     |     |
|-------|----|-----|---------|-----|-----|---------|-----|-----|
| 中途    | 質問 | 平叙  | 中途      | 質問  | 平叙  | 中途      | 質問  | 平叙  |
| 90%   | 0% | 10% | 17%     | 50% | 33% | 33%     | 33% | 33% |

| 英語話者 |     |     | 中国語話者 |     |     |
|------|-----|-----|-------|-----|-----|
| 中途   | 質問  | 平叙  | 中途    | 質問  | 平叙  |
| 27%  | 55% | 18% | 27%   | 18% | 55% |

分(A)、前提部分(B)、依頼部分(C)です。依頼を述べるまでの流れとして、開始部分(A)は「あのー、ご相談があるんですが」から始まって、前提部分(B)「いま、週三日はたっているんですが」、最後、本題の依頼部分(C)は、「週二日に変更させていただきたいんですけれども」と続きます。これが一般的な日本語母語話者のパターンです。そこで使われている文の種類を説明します。言いさし(中途終了)文とは、「お話ししたいことがあるんですが……」と最後まで言わないで途中で終わる表現です。たとえば言いさしでも、相手も何かあるなとわかります。また、質問文を使う場合は、「いま、ちょっとよろし

いでしょか」のように、相手の様子をうかがうような表現を使います。そして、第三は、日本人には多くありませんが、「店長、話があります」のような平叙文です。日本語母語話者にも何人かは使用している人がいました。

開始部の結果が表1です。日本語話者の場合は圧倒的(90%)に、中途終了文で始まりますが、外国人の場合は多くありません。この結果から、母語にかかわらず、日本語母語話者は、「言いさし」(途中終了)が多いのに対して、学習者はきわめて少ないことがわかります。日本人だったら、「ご相談があるんですけど……」「申し訳ないんですけど……」と言うのですが、学習者はそれが少ないのです。このことは生駒・志村の先行研究を支持する結果となりました。

言いさし文を使わない学習者は、平叙文を使う傾向があり、中国語話者はその割合が高くなっています。いきなり「お願いがあります」とか「質問があります」「話があります」「話したいです」で始まります。一番驚いたのは、最初にもご紹介した「言いたいことがあります」という表現です。これはさすがに少なかったのですが、直接的な表現を使うケースが多く見られました。

また、日本語母語話者は、依頼に入る前に、開始部でまず、自分の依頼を謝罪から始める傾向が見られました。たとえば、「あつ お時間をとって すみません」とか「あのー ちょっとお時間いただけますでしょうか」のように謝罪をするような表現から始まります。このことは猪崎も指摘しています。

次は前提部です。

日本語母語話者の場合、「いま、自分は週三日働いているんですけれ

ども」のように、依頼に入る前に、必ず現状について説明し、依頼の前提を話します。「いま、週三日、入っているんですけど……」「いままで週三日で働かせていただいていたんですけれども……」。このような前提が入ると、聞く側はどうでしょうか。「何か言ってくるな」「アルバイト日数のことだな」ということが、推測できるわけです。

日本人には前提部に、説明が一〇〇%あります。フランス語母語話者にわりと説明がありますが、スペイン語話者や英語話者、中国語話者は説明なしがわりと多くなっています(表2)。スペイン語、英語、中国語話者の場合、前提を省略して本題の依頼にすぐ入る傾向があります。「店長にお願いがありますが、ふつか、週に二日だけ働きたいんです」といきなり本題を切り出します。私も、「えーっと、いま何日働いていましたか」と聞き返すようになります。早く本題を切り出すケースが多いようです。

次は最後の依頼部です。

本題に入ったとき、どんな文の形式が多いのでしょうか。

やはり、日本人は「二日にしていただきたいのですが……」のような言いさし(中途終了)文です(表3)。本題の部分で中途終了文を使うのは、外国人の日本語学習者にはもしかしたら曖昧ととらえられているかもしれません。学習者は言いさしではなく、「質問文」の割合が高くなっています。具体的には、「二日間にしていただけませんか」「二日はどうですか」などが見られますが、これらは、まだまだ丁寧です。「二日になってもいいですか」は、「二日にさせていたただいてもいいですか」のような使役がなかなか出てこないかたちです。

質問文だけでなく、平叙文の割合も高いです。たとえば、

表2 学習者の前提部(B)の説明の有無

[前提部の現状説明の有無の割合]

| 日本語話者 |     | フランス語話者 |     | スペイン語話者 |     |
|-------|-----|---------|-----|---------|-----|
| 説明有   | 説明無 | 説明有     | 説明無 | 説明有     | 説明無 |
| 100%  | 0%  | 93%     | 7%  | 60%     | 40% |

| 英語話者 |     | 中国語話者 |     |
|------|-----|-------|-----|
| 説明有  | 説明無 | 説明有   | 説明無 |
| 47%  | 53% | 67%   | 33% |

表3 学習者の発話依頼部(C)の文の種類

[依頼部の各文の割合]

| 日本語話者 |     |    | フランス語話者 |     |     | スペイン語話者 |     |     |
|-------|-----|----|---------|-----|-----|---------|-----|-----|
| 中途    | 質問  | 平叙 | 中途      | 質問  | 平叙  | 中途      | 質問  | 平叙  |
| 73%   | 20% | 7% | 27%     | 53% | 20% | 13%     | 47% | 40% |

| 英語話者 |     |     | 中国語話者 |     |     |
|------|-----|-----|-------|-----|-----|
| 中途   | 質問  | 平叙  | 中途    | 質問  | 平叙  |
| 7%   | 73% | 20% | 0%    | 80% | 20% |

「勉強が難しいなのでお願いします」「二日だけをできれば働きたいです」などです。「店長 二日だけお願いします」「いやあー、こっちはいろいろ忙しいから」と言うと、「いや、お願いします」「お願いします」の連呼だったりします。

「二日だけ働いて、させてください」には、使役を一生懸命使おうとする学習者の気持ちが現れています。この「させていたただく」という表現は、学習者にはなかなか難しいのです。「変更させていたただく」「二日にさせていただく」がなかなか使えないようです。

そのために、意図が正しく伝わらない問題のケースも出てきます。



たとえば、「変更してもらえないかと思って」などは、少し丁寧さが欠けます。「やめていただけませんか」の例は、おそらく「一日やめさせていただけませんか」と言いたかったのですが、これではまったく立場が逆転してしまいます。また、次のような「私は三日の仕事ができませんですから、どうしましょう。どうすればいいですか」と、聞かれるケースもありました。このような言い方は、店長（聞き手）に不快感、誤解を与えてしまいます。

## 結果をまとめると

まず、第一に、学習者は母語の違いにかかわらず、開始部や依頼部で「言いさし（中途終了）文」を使いません。母語話者であれば、「ちよつとご相談があるんですが……」と言うところを、「いま、暇ですか」とか「話があります」「あのー店長、話したいです」と切り出します。これらは場合によっては、上司である店長に不愉快な印象を与える可能性をはらんでいます。

第二は、学習者は前提を示さず、いきなり要望を提示してくる場合も多く、唐突な感じを与えます。日本人だったら「いま、週三日、入っているんですけど……」と言ったら、「これはだいたいアルバイトの日数の話だな」という推測がつののですが、前提がな

く、いきなり、「店長にお願いがありますが、ふつか、週に二日だけ働きたいんです。いいですか」と話を進めます。中国の学習者には、「いいですか」と念押しするケースが多く見られました。

第三は、母語話者は謝罪表現が多く出てきますが、学習者には謝罪する面は少なく、それは先行研究で猪崎が言っている、「学習者は依頼とみなさず、依頼を交渉とみなしている可能性がある」のではないかと考えます。日本語母語話者の場合、「申し訳ないんですけれども……」「週二日に変更させていただきたいんですけれども……」と、へりくだって話をします。学習者には、「二日どうですか」「二日だけできれば働きたいです。どうですか、いいですか」といった表現が出てきます。これらの表現は、彼らの日本語能力レベルがまだそこまで達していないという日本語能力の問題かもしれません。しかし、どの国の学習者も、比較的に交渉的な表現が多くなっていました。

## おわりに―多文化共生社会のなかで―

二〇〇万人の外国人が住んでいる日本は、これから多文化共生の社会に進んでいきます。その中で、日本の企業が外国人にどんな能力を求めているかを調べてみました（図8）。二〇〇六年の調査によると、圧倒的に「日本語力」です。次に、「日本の社会・文化に適應する能力」、それから、調整力ともいえる「チームワーク力」が出てきます。次に、日本語以外の他の母語を含めての「他の言語能力」と、日本企業文化・働き方への適應力を指す「働き方対応」が同率となっています。さらに、その道の「専門知識」が続きます。これらが、日本企業がいわ

ゆる外国人、グローバル人材に求める内容です。

まとめると、多くの企業が、たとえ外国人といえども日本語で大半の業務を遂行することを期待しているといえると思います。それは、相手や場面において使い分けられる日本語によるコミュニケーション能力です。このコミュニケーション能力とは、単にコミュニケーションでできるだけではなく、場面によって、相手によって使い分けられることを意味します。これは、通常の日本語の生活に不自由のないコミュニケーションではなく、相手が何を望んでいるか、何を考えているかを考えたうえでの言語行動、言語能力を求めているのではないかと思います。

この調査の報告書では、非対面型の電話やメールなどのコミュニケーション能力もビジネスに必要な日本語能力と位置づけています。

では、留学生側は企業にどんなことを望んでいるのでしょうか(図9)。

まず、日本人社員の「異文化理解」です。今回のロールプレイでは、私たちはアルバイト日数の変更を「依頼」と考えているのですが、学習者が当然の交渉だ、と考えてい

「日本企業における外国人留学生の就業促進に関する調査研究」の報告書概要(2007)から  
(AOTS:(財)海外技術者研修協会 2006年調査実施)

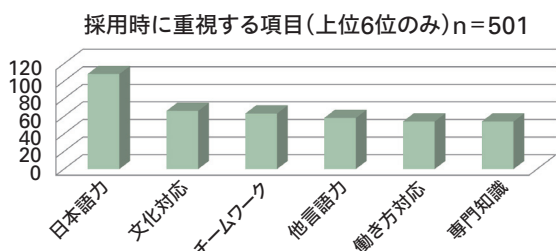


図8 企業が求める外国人の能力とは？

留学生が企業で活躍するために必要な項目  
(元留学生 n=259)

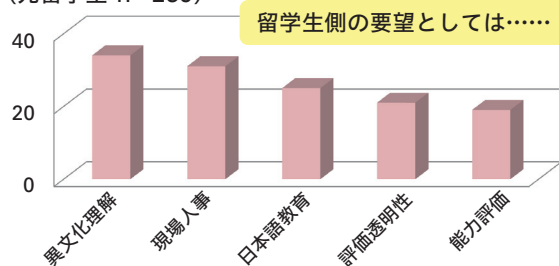


図9 留学生が日本企業に望むことは？

たら表現もかわってくるかもしれません。次が、留学生を人材として活かす方法としての「現場での人事」です。もっと留学生を活用してほしいという願いです。次は、充実したビジネス場面に適した「日本語教育」の充実、そして「評価の透明性」が求められています。さらに、年功序列ではなく「能力重視の評価」が、上位の項目として挙げられていました。

これからの私たちの多文化共生社会では、日本語母語話者の外国人に対する異文化理解を深めることが大切です。相手に求めるだけでなく、私たち自身も変わっていかねばならないのではないのでしょうか。

また、日本語教育においては、文法の正確さだけでなく、具体的に動画やロールプレイなどを活用して、表現の適切性やことばの伝わり方・伝え方なども具体的に指導していかなければならないと考えさせられました。これから、学習者コーパスの研究を通して、ソトとウチの接点としての日本語教育の在り方を考えていきたいと思います。

ご清聴ありがとうございます。



# ポスター展示とデモンストレーション



今回のフォーラムの講演は、国立国語研究所が六年間に実施してきた共同研究プロジェクトの研究成果の中から主要なものを紹介しましたが、講演だけでは紹介しきれなかったものも多数あります。講演会場とは別会場で、上代語・日本語史、全国方言、アイヌ語、日本語教

育、ウェブコーパスなどの研究成果については、ポスター展示とデモンストレーションを行い、公開前の『アイヌ語口承文芸コーパス』および『国語研日本語ウェブコーパス(NWJC)』ならびに現在も構築中の『日本語歴史コーパス(CHJ)』なども紹介しました。

## 《理論・構造研究系》

「上代語連濁データベース」ティモシー・バンス

「複合動詞レキシコン」影山 太郎

## 《時空間変異研究系》

「SP盤レコードが拓く日本語研究」相澤 正夫

「方言の形成過程の解明—方言分布の経年比較に基づく—」大西 拓一郎

「敬語の成人後習得と記憶時間」井上 史雄

「方言コーパス試作版」井上 文子

## 《言語資源研究系》

「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)の概要と検索」山崎 誠

「『日本語歴史コーパス(CHJ)』の概要と検索」

小木曾 智信

## 《言語対照研究系》

「日本語教育に役立つ『基本動詞ハンドブック』の開発」今村 泰也、ブラシャント・パルデシ

「アイヌ語研究の新しい局面へ向けた取り組み—アイヌ語班研究活動報告—」

アンナ・ブガエワ、小林 美紀

「日本列島と周辺諸言語の類型論的・比較歴史的研究—3年間の研究成果から—」

ジョン・ホイットマン、長崎 郁

「語りの中に生きることば—アイヌ語の口承文芸コーパス—」アンナ・ブガエワ、小林 美紀

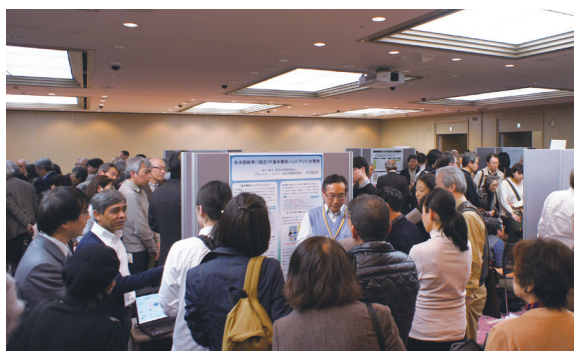
## 《日本語教育研究・情報センター》

「接続詞に透けて見えるジャンルの不思議—商学・経済学・法学・社会学・国際政治学の違いを例に—」石黒 圭

「日本に定住した外国人のことばの使用と環境に関する縦断的研究—日本語学習者の会話力に焦点を当てながら見えてきたこと—」野山 広

## 《コーパス開発センター》

「『国語研日本語ウェブコーパス(NWJC)』の概要と検索」浅原 正幸





# 閉会の辞／今後の展望

所長 影山 太郎



みなさま、一時から五時すぎまで四時間、あいだにデモンストレーションも挟み、長時間おつきあいいただきました。本日は、ウチから見た日本語、ソトから見た日本語、そして、ウチとソトの接点としての日本語学習について研究成果をご紹介します。特に、ウチとソトの二つの視点が接触する日本語教育・日本語学習については、日本の文化や生活様式、人間関係、その他さまざまな要素が影響していて、単純にことばの問題として片付けられないことをご理解いただけたかと思います。

開会の挨拶で述べましたように、日本語の将来は未来永劫、安泰であるとは言いきれません。私は、国立国語研究所の仕事は今日のグローバル化されつつある世界において、日本の「無形文化財」といってよい日本語という言語を守り立てていくことだと思っています。そのためには、豊かで美しい日本語の姿を将来に伝えていくような研究、研究の成果を研究者、一般社会、日本語学習者に発信することで学術世界と日常生活の双方を豊かにするような研究、そして、日本語の学術的研究および日本語という言語そのものを世界に浸透させるような活動をこれからも進めていく所存です。とりわけ重要なのは、最後に挙げた、世界との関係です。従来、日本語の学術研究は国語学と呼ばれ、日本という小さな列島のなかだけに収まっていました。しかし、それでは現在のグローバル社会では通じません。日本語の学術的研究および日本語という言語そのものを世界に広めていくための情報発信、成果発信を強化していきたいと思っています。

これで閉会となりますが、今回は来年二〇一七年一月二日（土）、場所は今日と同じ一橋講堂で開催します。そのときの出し物は「オノマトペ」、すなわち擬声語、擬音語、擬態語を予定しています。「雨がザアザア降る」「シトシト降る」といった言い方は、西洋の言語学者のあいだでは、原始的で幼稚な表現と見なされることが多いようです。ところが、日本語のなかでは、オノマトペは、音声、意味、文法、文体など言語全般にかかわる複雑な性質を持っています。文学作品や日常のコミュニケーションにも大きくかわっています。次回は、日本語にとって無くてはならないオノマトペにまつわる《びっくりばん》な話を準備しています。是非、お越し下さい。

本日は最後までお付き合いいただきました。ありがとうございます。

NINJAL フォーラムシリーズ7  
国立国語研究所 第9回 NINJAL フォーラム

**ここまで進んだ！ここまで分かった！  
国立国語研究所の日本語研究**

2016 (平成28) 年8月10日

発 行：人間文化研究機構 国立国語研究所  
〒190-8561 東京都立川市緑町10-2  
TEL 042-540-4300 FAX 042-540-4333  
<http://www.ninjal.ac.jp>

制 作：株式会社クバプロ



国立国語研究所